

# 埼玉県ケアラー支援計画のための ヤングケアラー実態調査結果

## (内容)

1. ヤングケアラーの属性
2. 被介護者の属性
3. ケアの状況
4. ケアの影響
5. ヤングケアラーが望むサポート
6. ヤングケアラー本人の状況
7. 自由意見

令和2年11月25日

# ヤングケアラー実態調査の目的・内容及び分析方法

## 調査目的及び主な調査内容

### 【調査目的】

- ・ヤングケアラーの実態が不明なため、潜在化しているヤングケアラーの存在を把握する。
- ・ケアの状況、ヤングケアラーへの影響、困りごと、支援ニーズ等を把握し、計画の策定に役立てる。

### 【主な調査項目】

- ・ケアラー自身について
- ・ケアの状況について
- ・ケアの影響について
- ・ケアに関する相談について
- ・求める支援について など

### 【調査区域】

- ・埼玉県内県立高校、市立高校、国立高校、県立高校定時制、市立高校定時制、私立高校 計193校

### 【調査対象】

- ・調査時点の高校2年生：55,772人

### 【回答者数】

- ・48,261人(回収率：86.5%)

## 分析方法

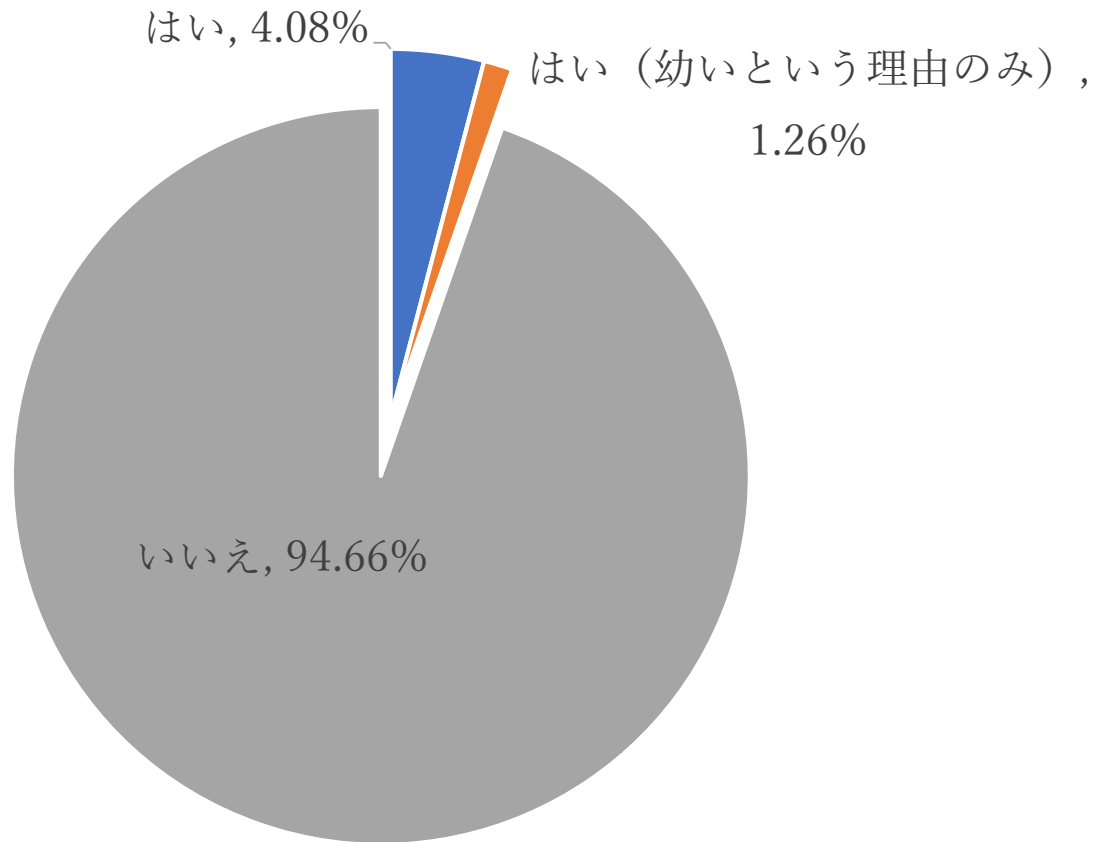
- 調査票各設問の単純集計及びクロス集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- 自身がヤングケアラーである、または過去にそうであったと思うかについて、回答者48,261名の内、「はい」と回答した2,577名（5.3%）であった。
- ただし、障害や病気などではなく、ケアの相手が幼いという理由のみでケアをしている方608名をヤングケアラーと見なすかどうか判断が難しいことから、本調査では除外することとし、残りの1,969名（4.1%）をヤングケアラーの対象者とした。
- ヤングケアラーによってケアを受けている者(以下、被介護者)に関する設問に関しては、被介護者総数(2,185人)で分析した(※1人のヤングケアラーが複数人のケアを行っている場合があるため、被介護者総数は、ヤングケアラー数より多くなっている)。

# 1. ヤングケアラーの属性

# 1-1 ヤングケアラーの存在

- 自身が「ヤングケアラー」である、または過去にそうであったと思うか尋ねたところ、回答者48,261人の内、「はい」と回答したのは2,577人(5.3%)であった。
- ただし、本調査ではケアの相手が幼いという理由のみでケアをしている608人を除く1,969人(4.1%)をヤングケアラーの対象者とした。

図表1-1. 「ヤングケアラー」の存在割合

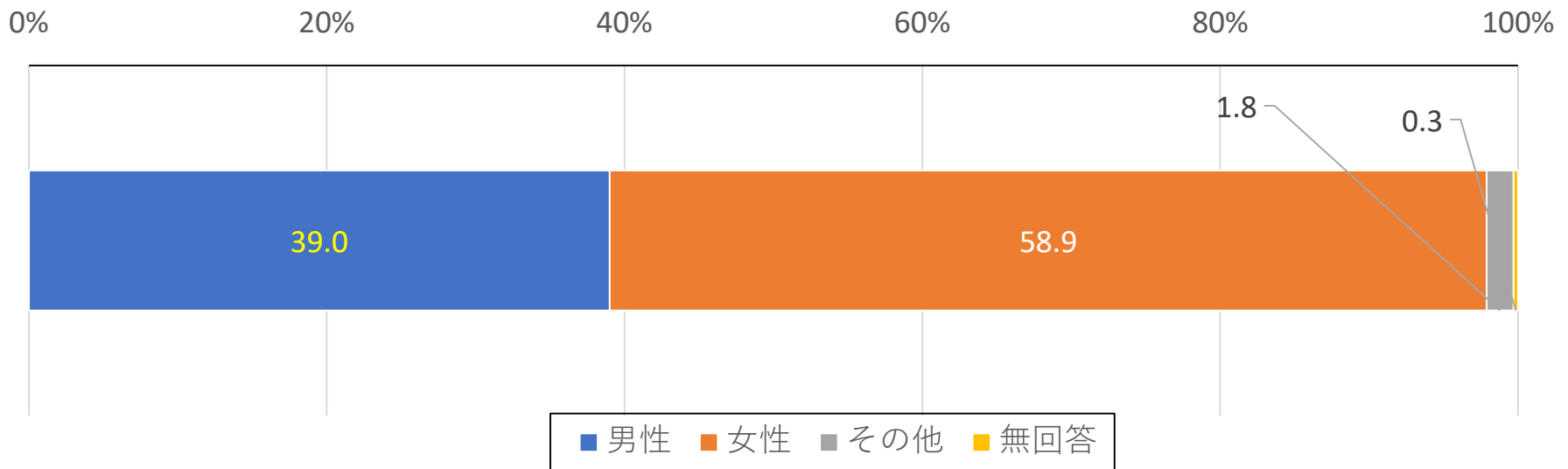


注) 本集計は県内高校2年生（48261人）に対して行われている。

# 1-2 ヤングケアラーの性別

- ヤングケアラーであると回答した1,969人の性別をみると、「男性」767人(39.0%)、「女性」1,160人(58.9%)、「その他」36人(1.8%)、「無回答」6人(0.3%)であった。

図表1-2. 回答者(ヤングケアラー)の性別の割合



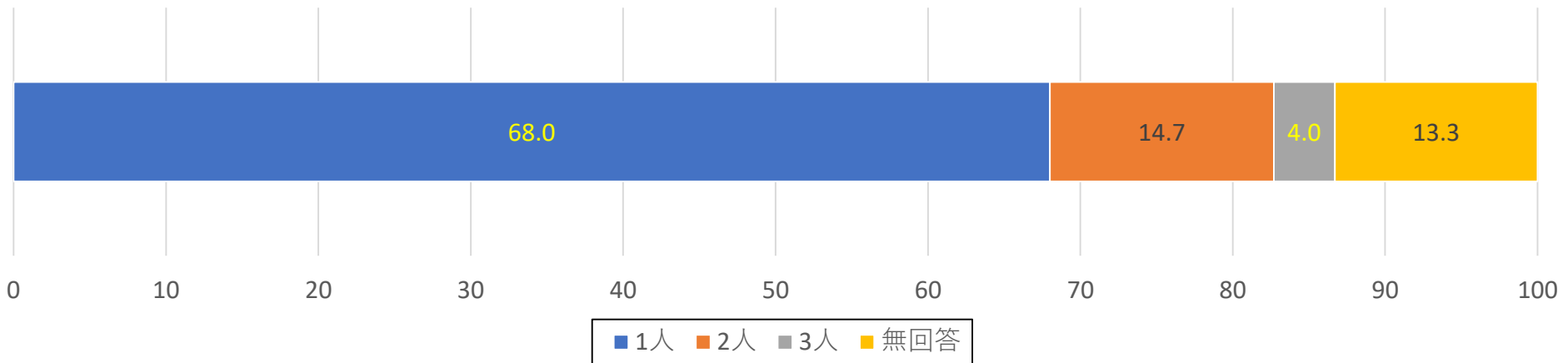
	男性	女性	その他	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	767	1,160	36	6
割合 (%)	39.0	58.9	1.8	0.3

注) 本集計はケアラー本人 (1969人) に対して行われている。

# 1-3 ヤングケアラーがケアしている人数

- ヤングケアラー（N=1,969）のケアしている人数（被介護者人数）の構成割合をみると、「1人」（N=1,339）が68.0%で最も高く、次いで「2人」（N=290）が14.7%、「3人」（N=79）が4.0%の順であった。

図表1-3. ヤングケアラーのケアしている人数の割合



	1人	2人	3人	回答なし
ケアラー総数 (N=1969)	1,339	290	79	261
割合 (%)	68.0	14.7	4.0	13.3

注) 本集計はケアラー本人（1969人）に対して行われている。

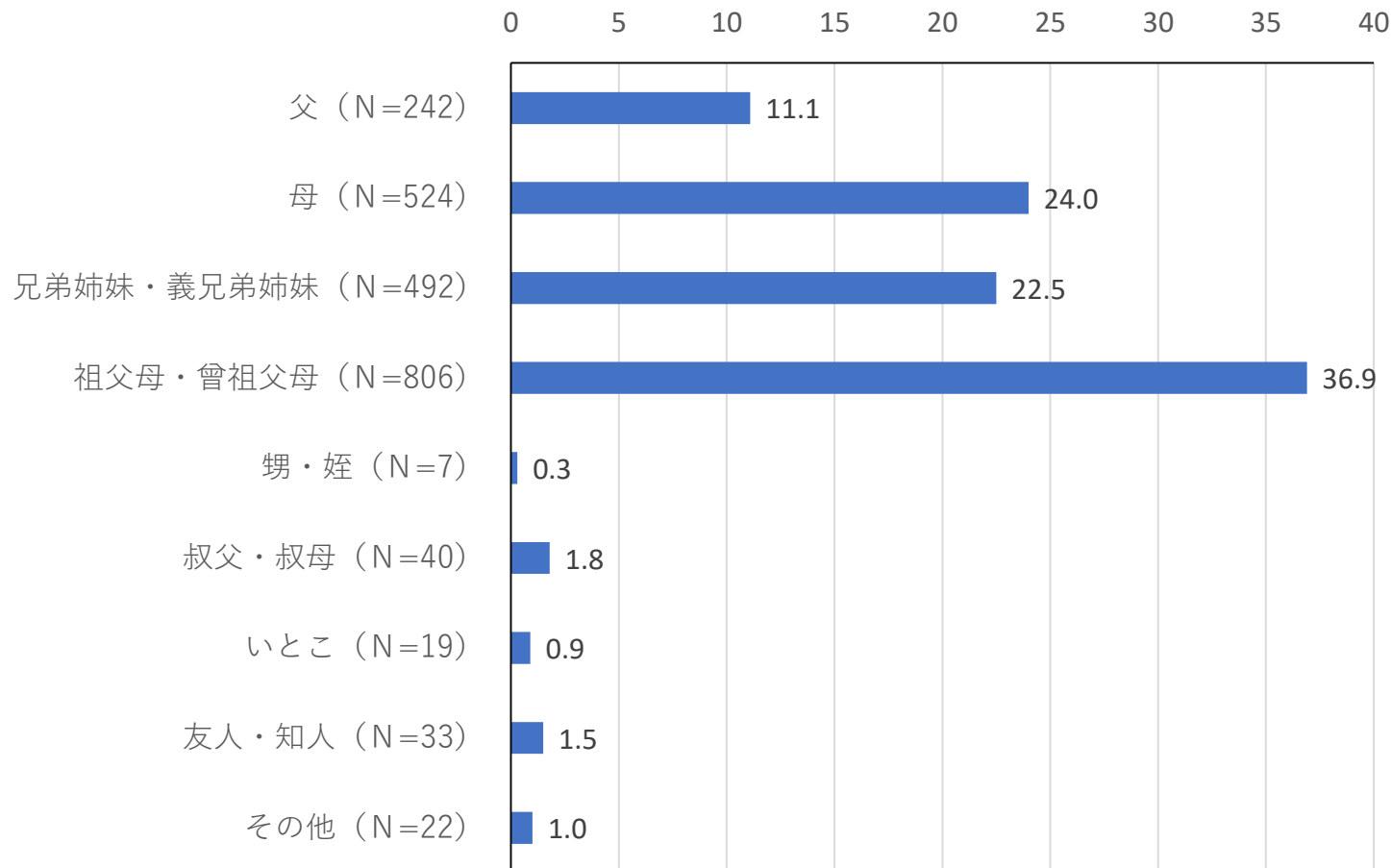
## 2. 被介護者の属性

## 2-1 被介護者の続柄

- 被介護者(N=2,185)の、ヤングケアラーとの関係(続柄)をみると、「祖父母・曾祖父母」(N=806)が36.9%と最も高く、次いで「母」(N=524)が24.0%、「兄弟姉妹・義兄弟姉妹」(N=492)が22.5%、「父」(N=242)が11.1%の順であった。

図表2-1. 被介護者の続柄(複数回答)

単位：%



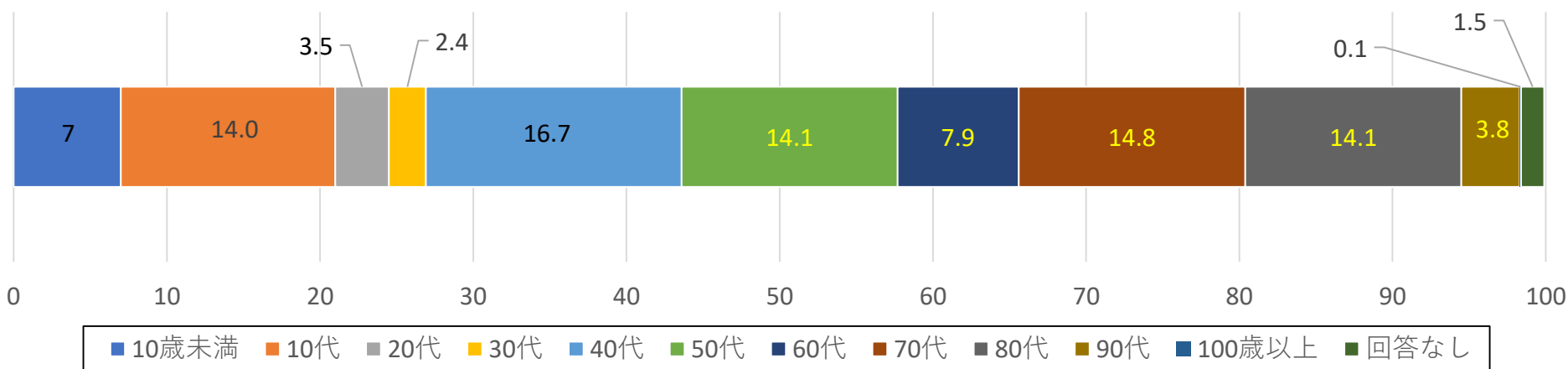
注)本集計は被介護者数(2,185人)に対して行っている。



## 2-2 被介護者の年齢

- 被介護者の年齢（N=2,185）をみると、「40代」（N=365）が16.7%と最も高く、次いで「70代」（N=324）14.8%、「50代」「80代」（N=308）14.1%の順であった。

図表2-2. 被介護者の年齢分布の割合



	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	回答なし
被介護者数 (N=2185)	154	305	77	53	365	308	172	324	308	84	3	32
割合 (%)	7.0	14.0	3.5	2.4	16.7	14.1	7.9	14.8	14.1	3.8	0.1	1.5

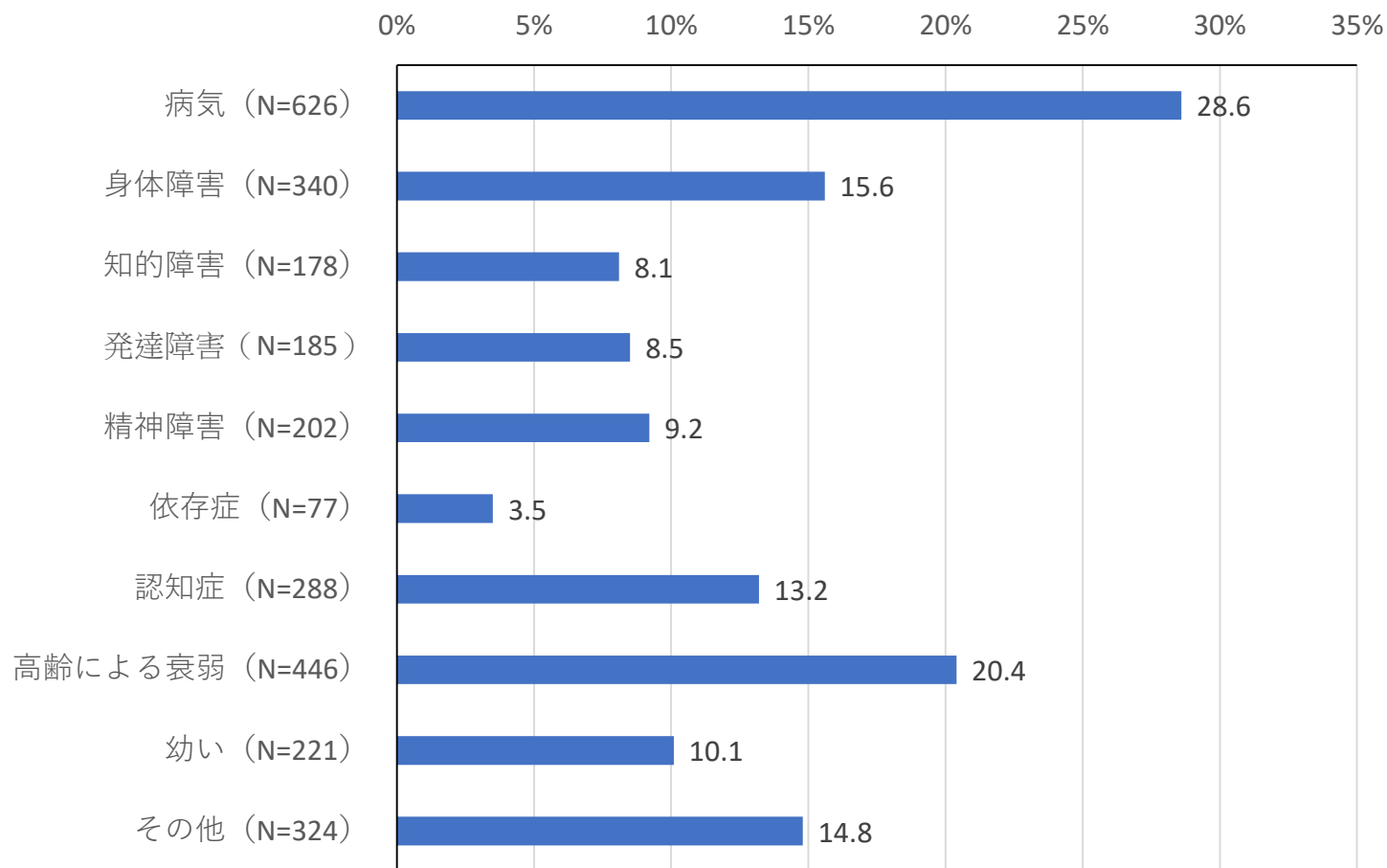
注)本集計は被介護者数(2,185人)に対して行っている。

## 2-3 被介護者の状況

- 被介護者の状況（N=2,185）をみると、「病気」（N=626）が28.6%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」（N=446）20.4%、「身体障害」（N=340）15.6%、「その他」（N=324）14.8%の順であった。

図表2-3. 介護が必要になった主な原因(複数回答)

単位：%



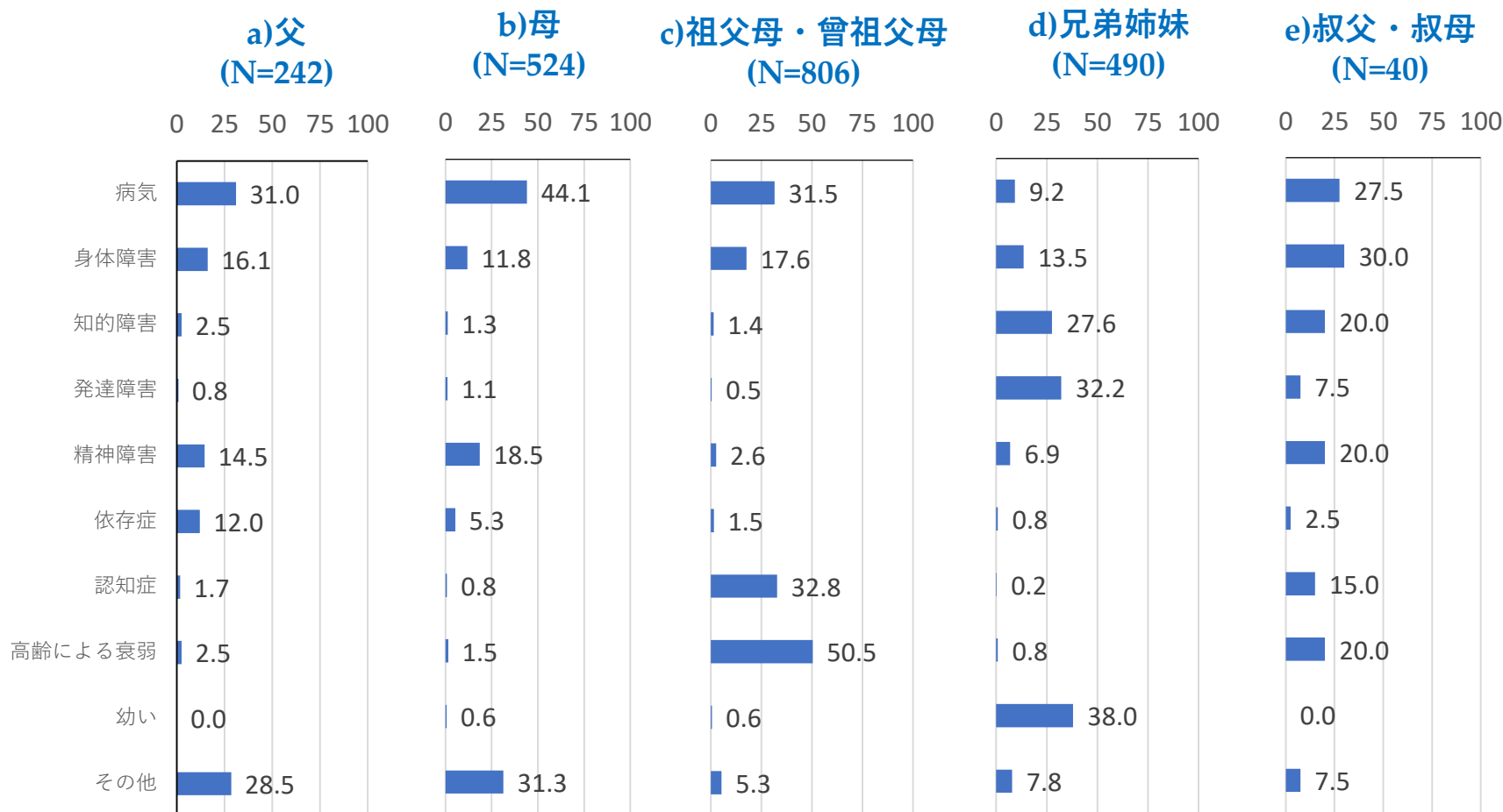
注)本集計は被介護者数(2,185人)に対して行っている。

## 2-3-1 主な続柄別にみた介護が必要となった主な原因

- 介護が必要になった主な原因をみると、祖父母・曾祖父母では、「高齢による衰弱」が最も多かった。
- 父母をみると「病気」が最も多かった。父親では「依存症」が12.0%と、他に比べて多かった。他方、母親では「精神障害」が18.5%と2番目に多かった。
- 兄弟姉妹では、「幼い」が38.0%と最も多く、次いで「発達障害」32.2%、「知的障害」27.6%の順であった。

図表2-3-1. 主な続柄別にみた介護が必要になった主な原因

単位：%



注)本集計は被介護者数(2,185人)に対して行っている。

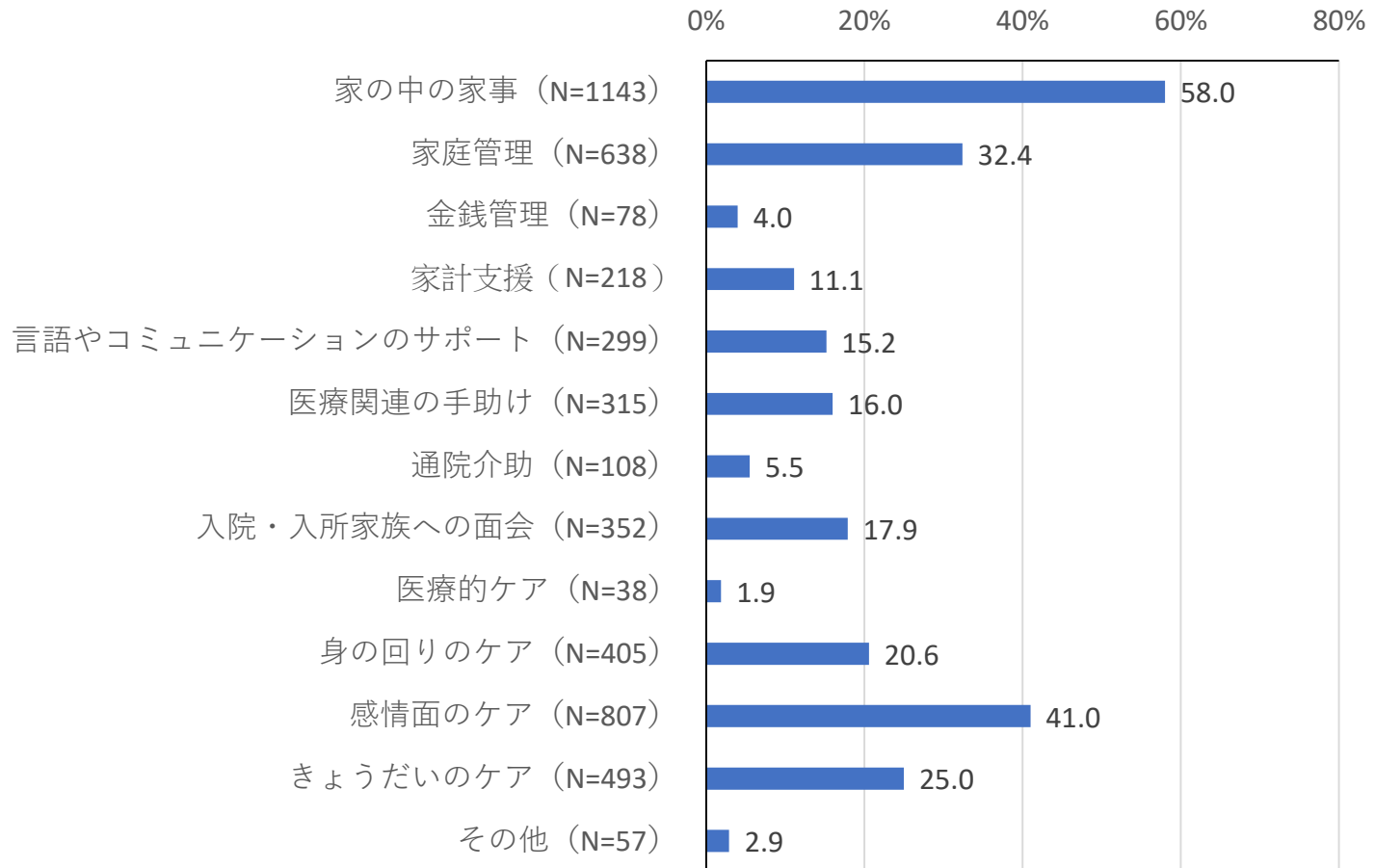
## 3.ケアの状況

## 3-1 ヤングケアラーが行っているケアの内容

- ヤングケアラーが行っているケアの内容（N=1,969）をみると、「家事(食事の用意・後片付け・洗濯・掃除など）」（N=1,143）が58.0%と最も高く、次いで「感情面のケア(その人のそばにいる・元気づける・話しかける・見守る・外に連れ出したりするなど）」（N=807）41.0%、「家庭管理(買い物・家の修理仕事・重いものを運ぶなど）」（N=638）32.4%、「きょうだいのケア」（N=493）25.0%の順であった。

図表3-1. ヤングケアラーが行っているケアの内容(複数回答)

単位：%

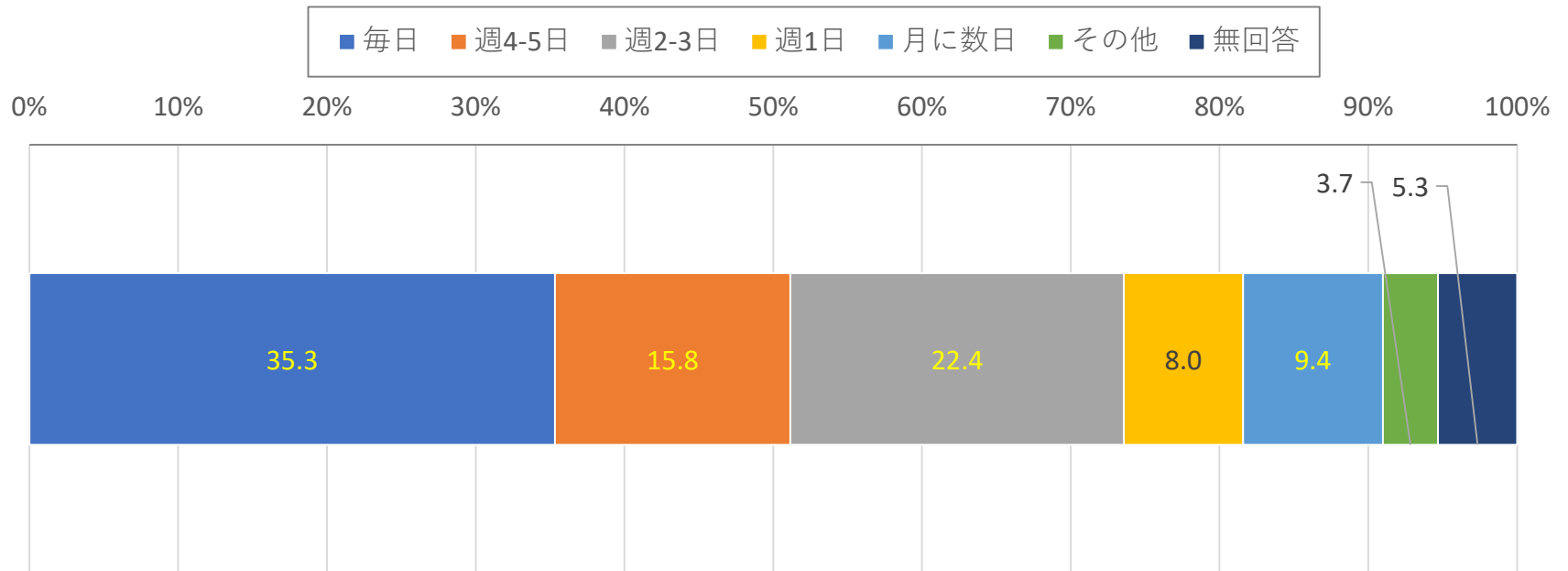


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

## 3-2 ケアをしている頻度

- ケアの頻度をみると、「毎日」(N=696)が35.3%と最も高く、次いで「週2-3日」(N=441)22.4%、「週4-5日」(N=312)15.8%の順であった。

図表3-2. ケアをしている頻度の割合



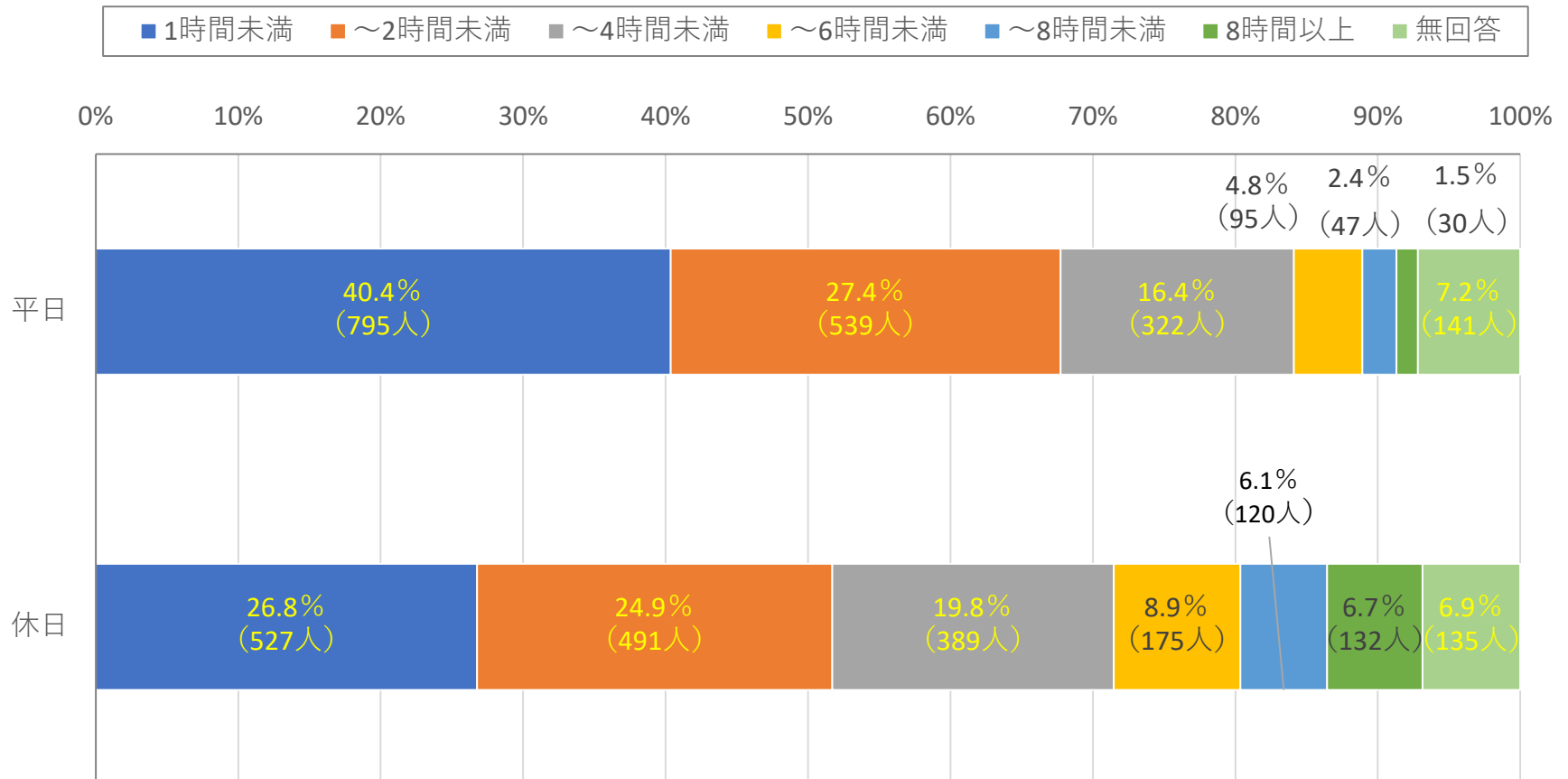
	毎日	週4~5日	週2~3日	週1日	月に数日	その他	無回答
ケアラー総数 (N=1969)	696	312	441	157	186	72	105
割合 (%)	35.3	15.8	22.4	8.0	9.4	3.7	5.3

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

### 3-3 ケアにかかる時間（平日・休日）

- ケアにかかる時間（N=1,969）をみると、平日は「1時間未満」（N=795）が40.4%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」（N=539）27.4%と、2時間未満が全体の約7割を占めていた。
- 休日も平日同様、「1時間未満」（N=527）が26.8%と最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」（N=491）24.9%の順であったが、その割合は約5割に減少しており、平日に比べると、ケアにかかる時間がより長くなっていた。

図表3-3. ケアにかかる時間の割合

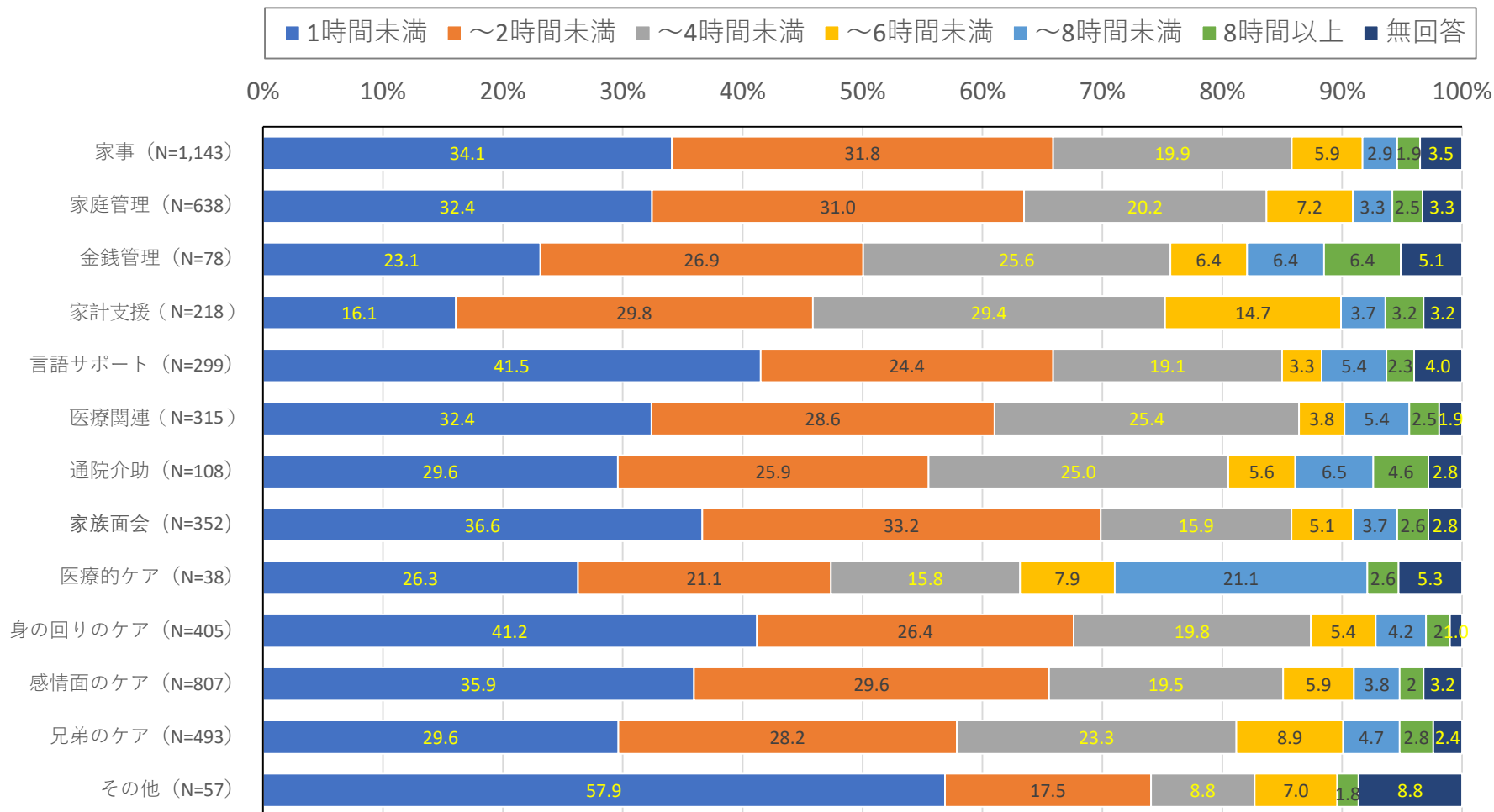


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

### 3-3-1 ケア内容別にみたケア時間（平日の場合）

- 4時間以上の割合をみると、「医療的ケア(経管栄養の管理や痰の吸引など)」が31.6%と最も高く、次いで「家計支援(バイトで働くなど)」21.6%、「金銭管理(請求書の支払い・銀行でのお金の出し入れなど)」19.2%の順であった。

図表3-3-1. ケア内容別にみた平日のケア時間の割合



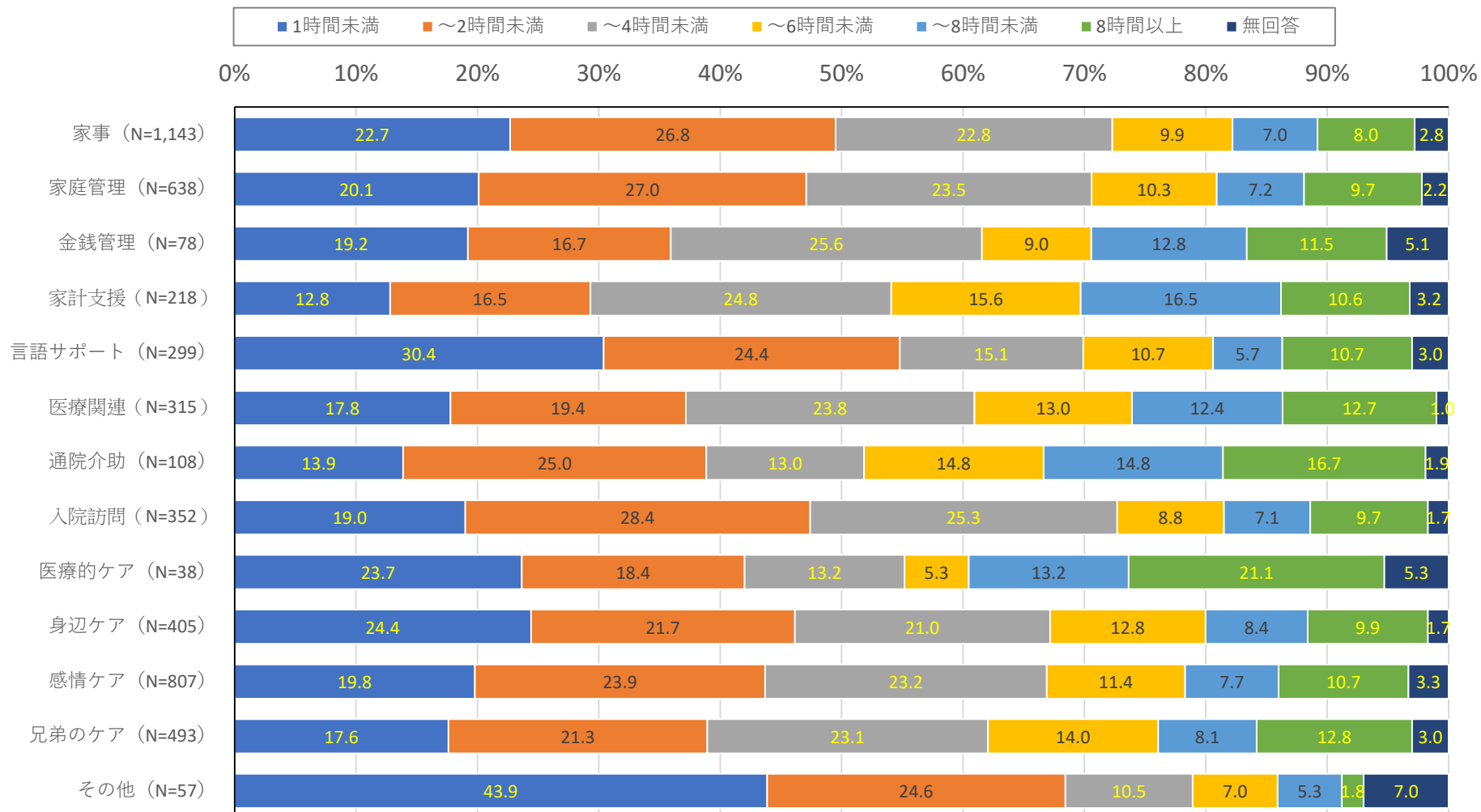
注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。



## 3-3-2 ケア内容別にみたケア時間（休日の場合）

- ケア時間が4時間以上の割合をみると、「通院介助」が46.3%と最も高く、次いで「家計支援(バイトで働くなど)」42.7%、「医療的ケア(経管栄養の管理や痰の吸引など)」39.5%の順であった。

図表3-3-2. ケア内容別にみた休日のケア時間の割合

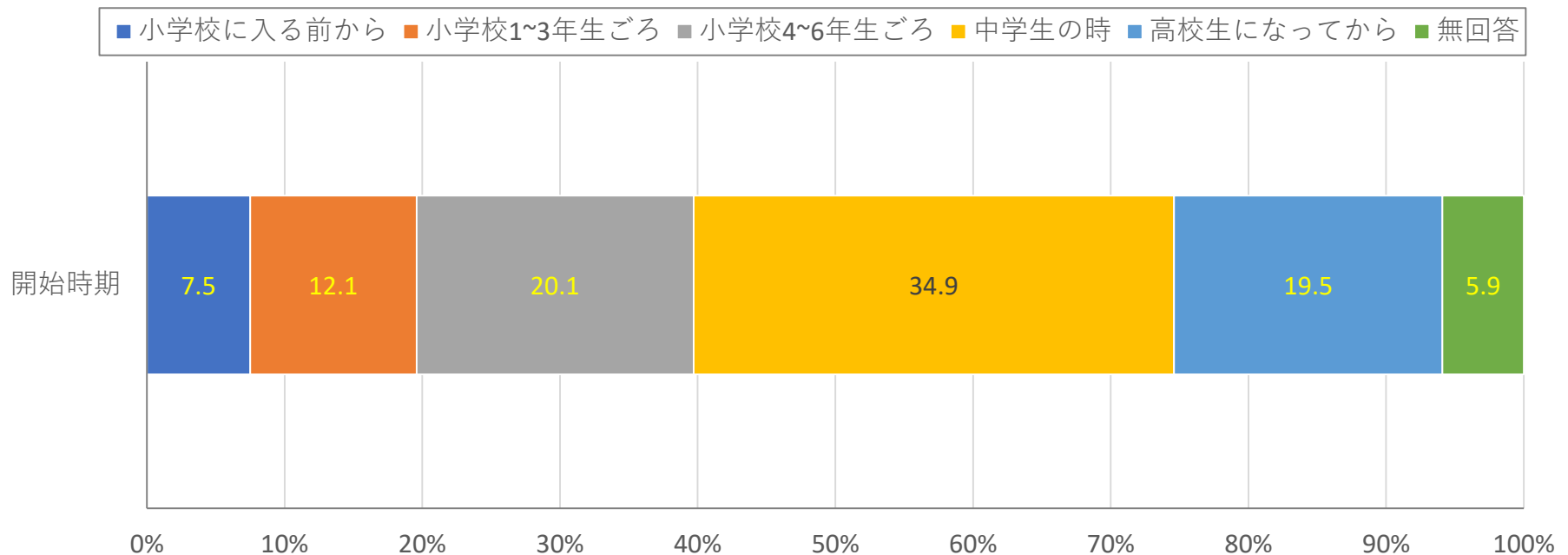


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

## 3-4 ケアの開始時期

- ケアの開始時期（N=1,969）をみると、「中学生の時」（N=688）が34.9%と最も高く、次いで「小学校4~6年生ごろ」（N=395）20.1%、「高校生になってから」（N=383）19.5%、「小学校1~3年生ごろ」（N=238）12.1%の順であった。

図表3-4. ケアの開始時期の割合



	小学生に入る前から	小学校1~3年生ごろ	小学校4~6年生ごろ	中学生の時	高校生になってから	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	148	238	395	688	383	117
割合 (%)	7.5	12.1	20.1	34.9	19.5	5.9

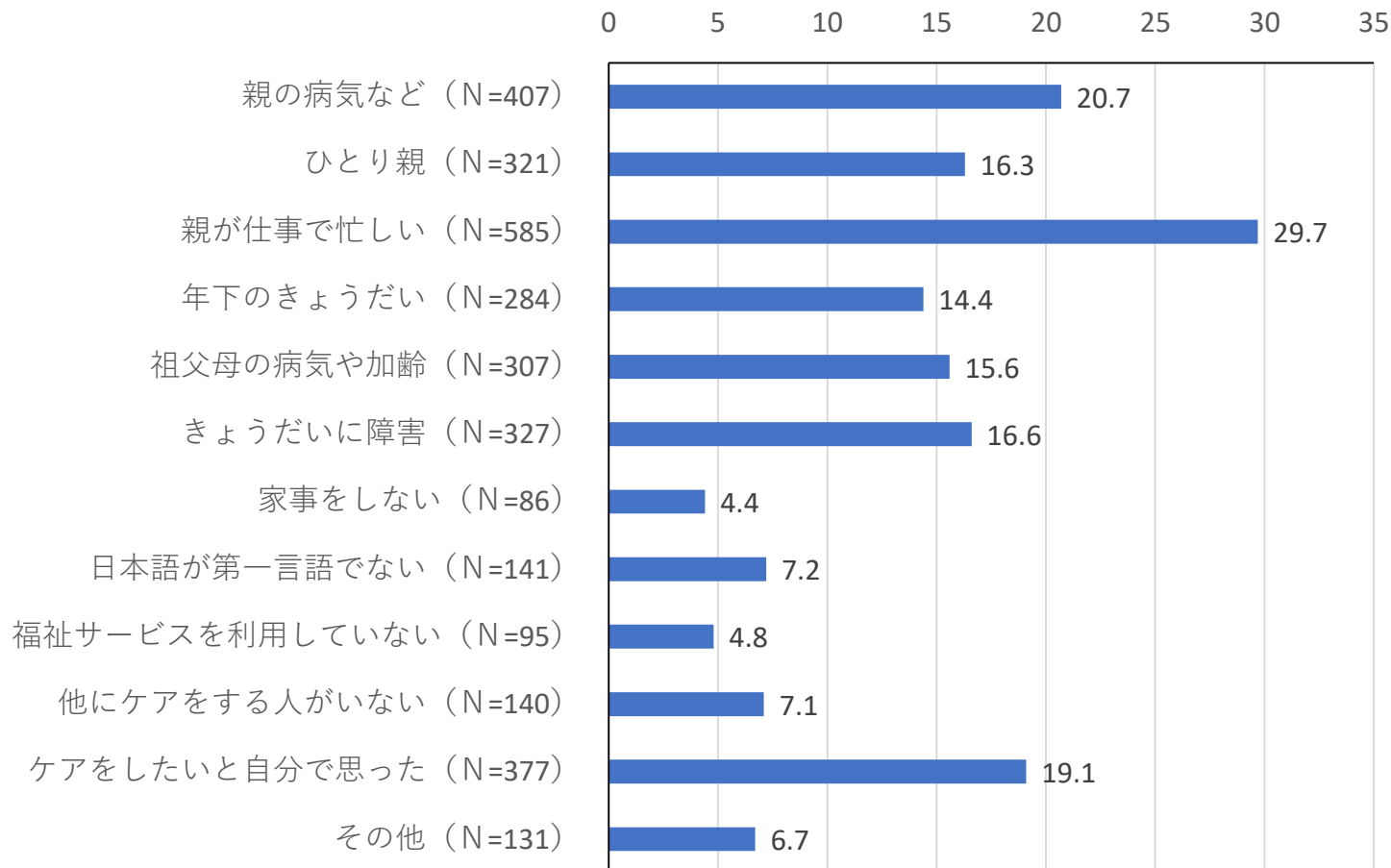
注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

## 3-5 ケアをしている理由

- ケアをしている理由(N=1,969)をみると、「親が仕事で忙しい」(N=585)が29.7%で最も高く、次いで「親の病気や障害等のため」(N=407)が20.7%、「ケアをしたいと自分で思ったため」(N=377)が19.1%、「きょうだいに障害があるため」(N=327)が16.6%の順であった。

図表3-5. ケアをしている理由(複数回答)

単位：%



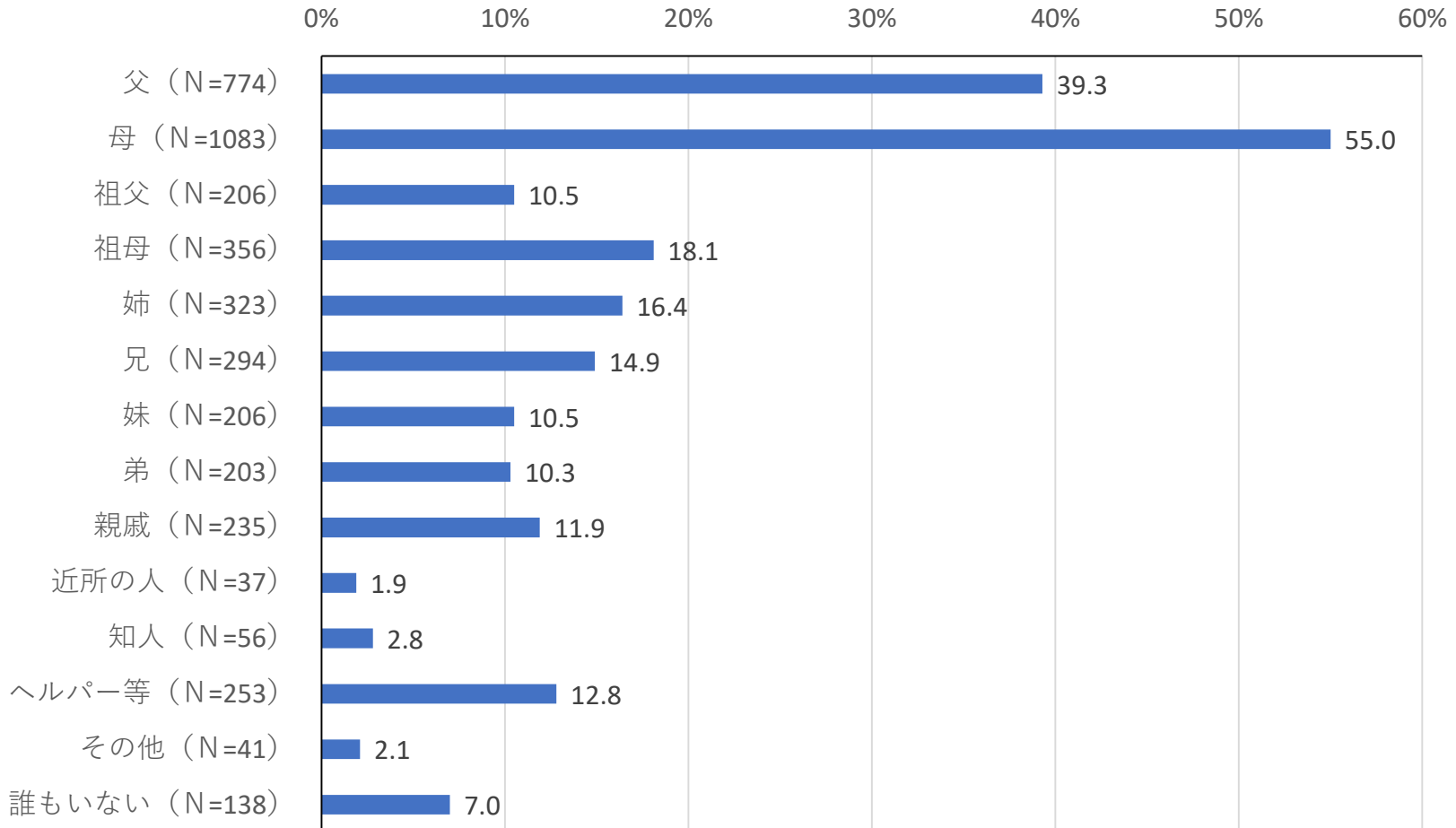
注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 3-6 ケアを手伝ってくれる人

- ケアを手伝ってくれる人（N=1,969）をみると、「母」が（N=1,083）55.0%と最も高く、次いで「父」（N=774）39.3%、「祖母」（N=356）18.1%、「姉」（N=323）16.4%の順であった。

図表3-6. ケアを手伝ってくれる人(複数回答)

単位：%



注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

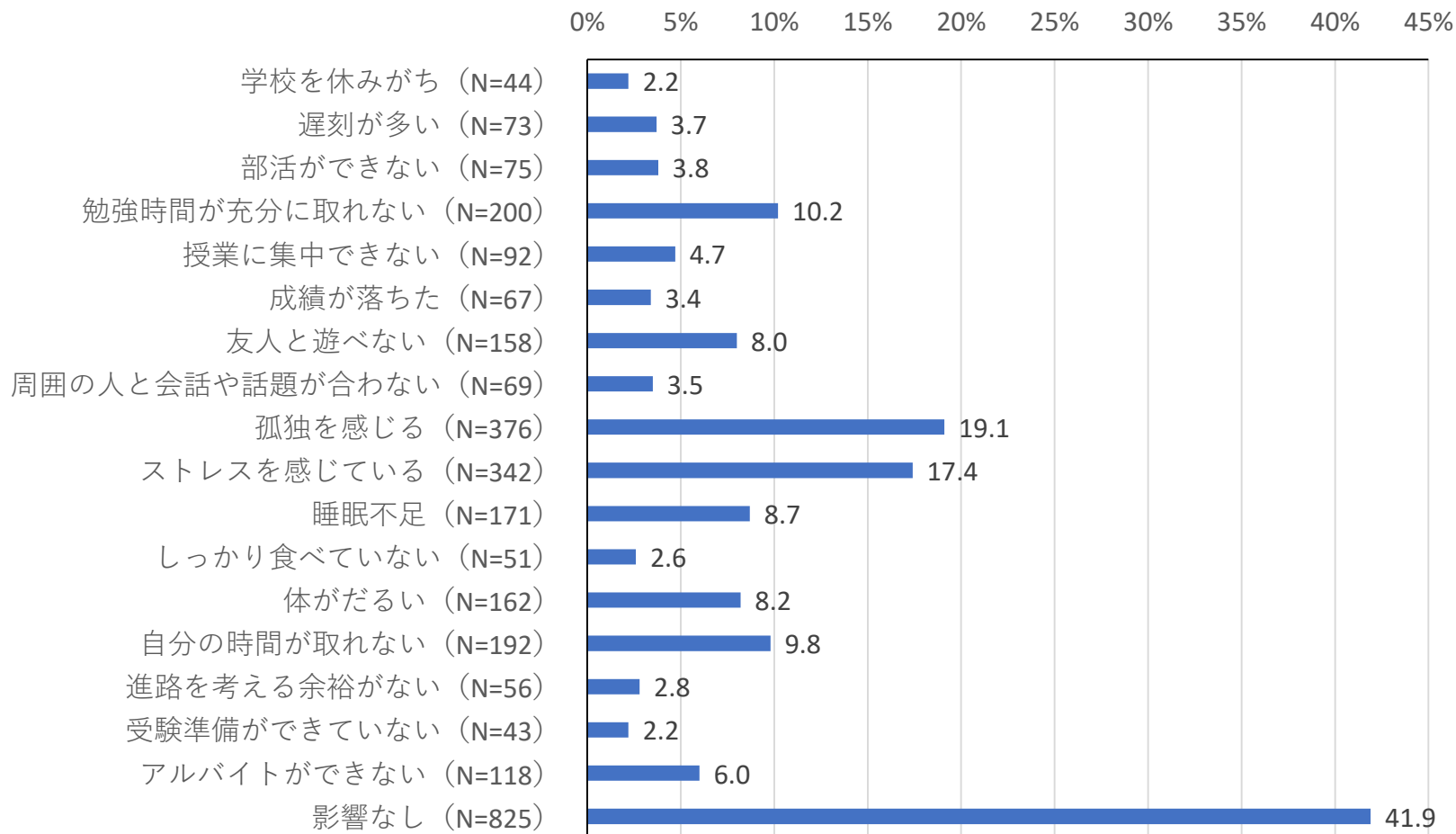
## 4. ケアの影響

# 4-1 学校生活への影響

- 学校生活への影響（N=1,969）をみると、「影響なし」（N=825）が41.9%と最も高く、次いで「孤独を感じる」（N=376）19.1%、「ストレスを感じている」（N=342）17.4%、「勉強時間が充分に取れない」（N=200）10.2%の順であった。

図表4-1. 学校生活への影響(複数回答)

単位：%



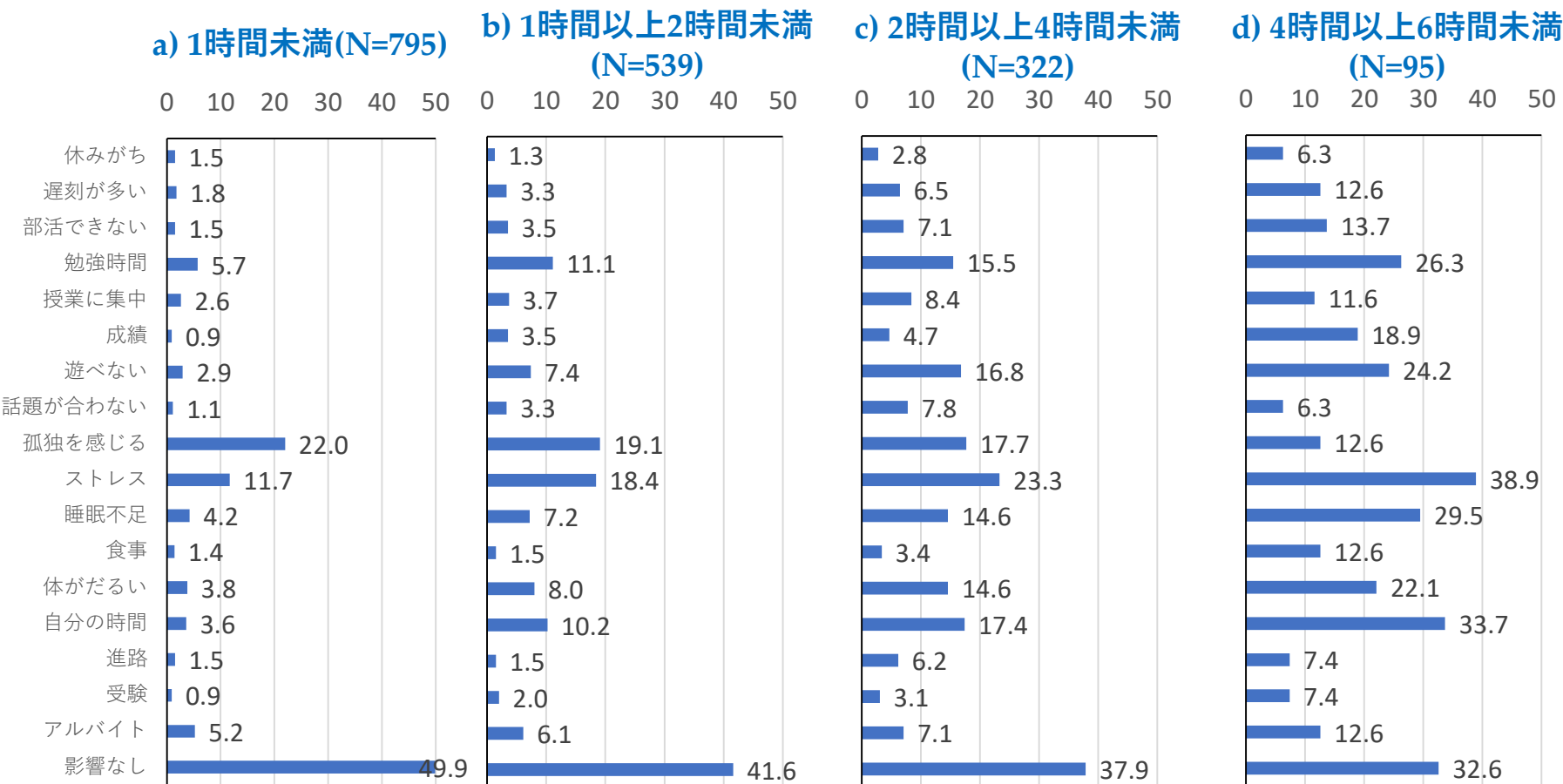
注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

# 4-1-1 1日あたりのケア時間と学校生活への影響（平日）

- 平日の1日あたりケア時間の学校生活への影響をみると、「4時間以上6時間未満」では「ストレスを感じている」が、それ以外では「影響なし」が最も多かった。
- ケア時間が長くなるにしたがって、「孤独を感じる」「影響なし」以外の項目の該当率に増加傾向がみられた。
- 「孤独を感じる」は、「6時間以上8時間未満」が最も多く、次いで「1時間未満」と、二極化傾向にあった。

図表4-1-1. 1日あたりのケア時間と学校生活への影響(平日)

単位：%

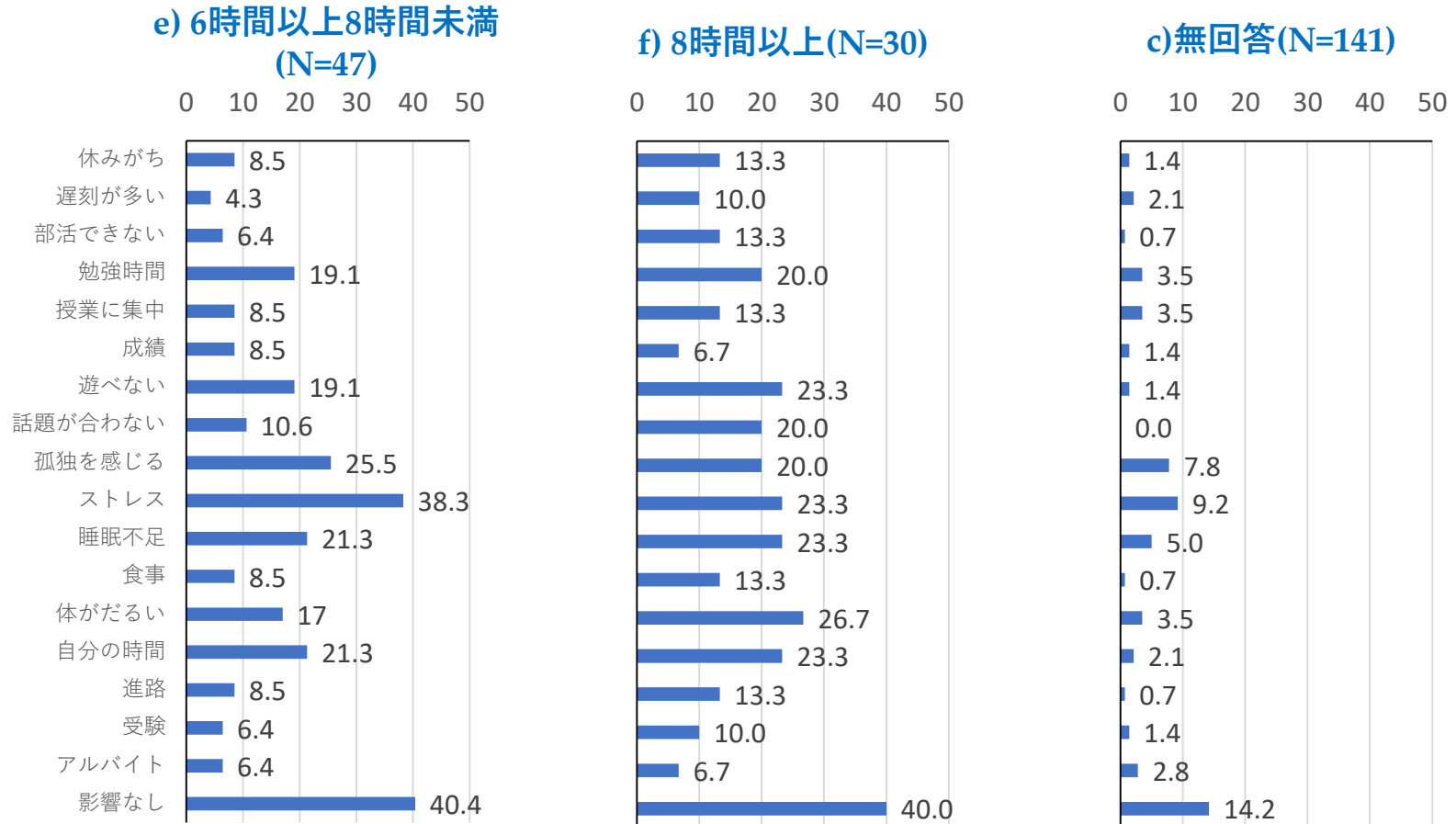


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

# 4-1-1 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響（平日，続き）

図表4-1-1. 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響(平日)

単位：%



注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

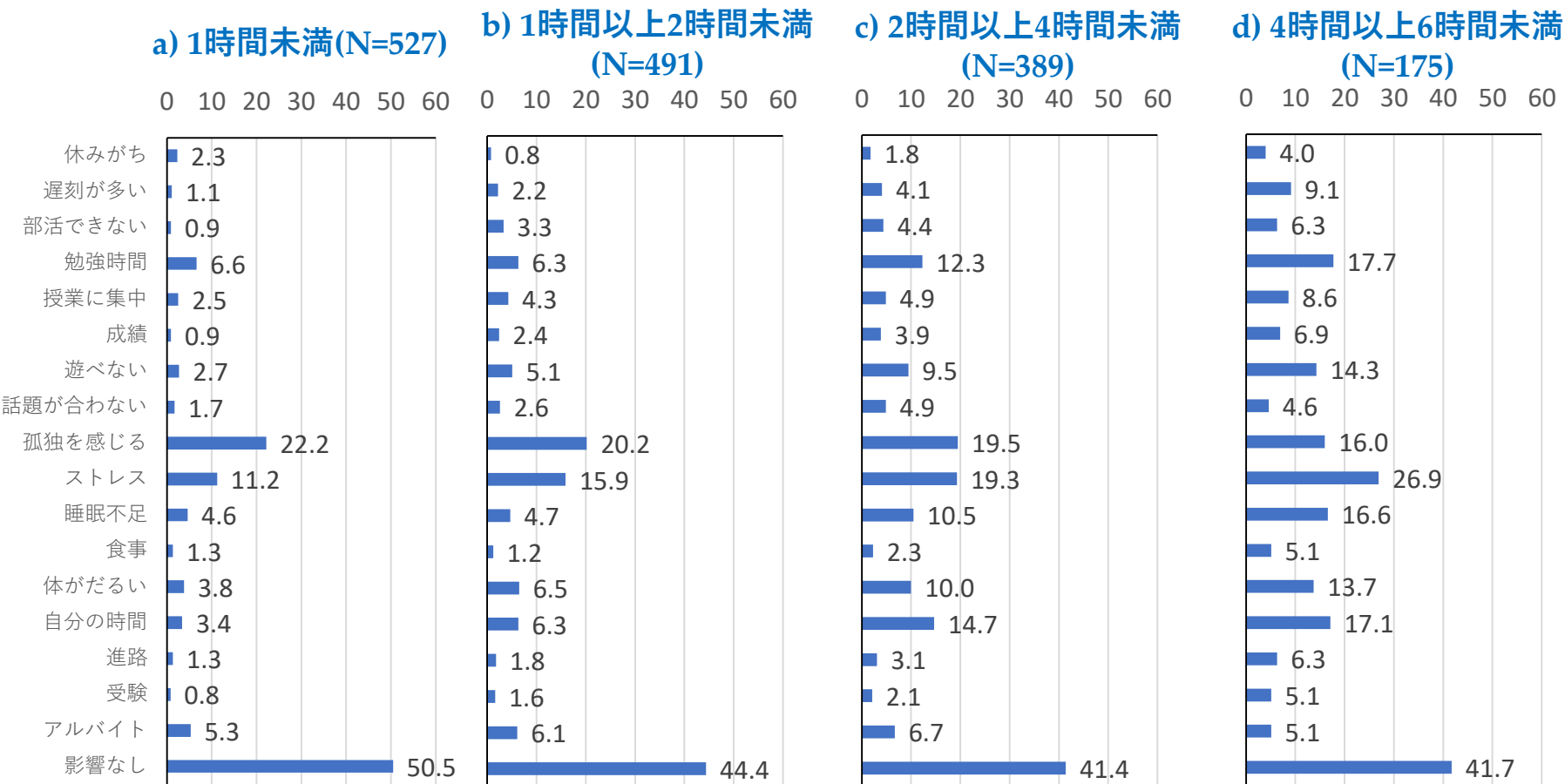


# 4-1-2 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響（休日）

- 休日の1日あたりケア時間の学校生活への影響をみると、すべてのケア時間で「影響なし」が最も多かった。
- ケア時間が長くなるにしたがって、「部活ができない」「友人と遊ぶことができない」「ストレスを感じる」「睡眠不足」「体がだるい」などの項目の該当率に増加傾向がみられた。
- 「孤独を感じる」は、「8時間以上」が最も多く、次いで「1時間未満」と、平日同様、二極化傾向にあった。

図表4-1-2. 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響(休日)

単位：%

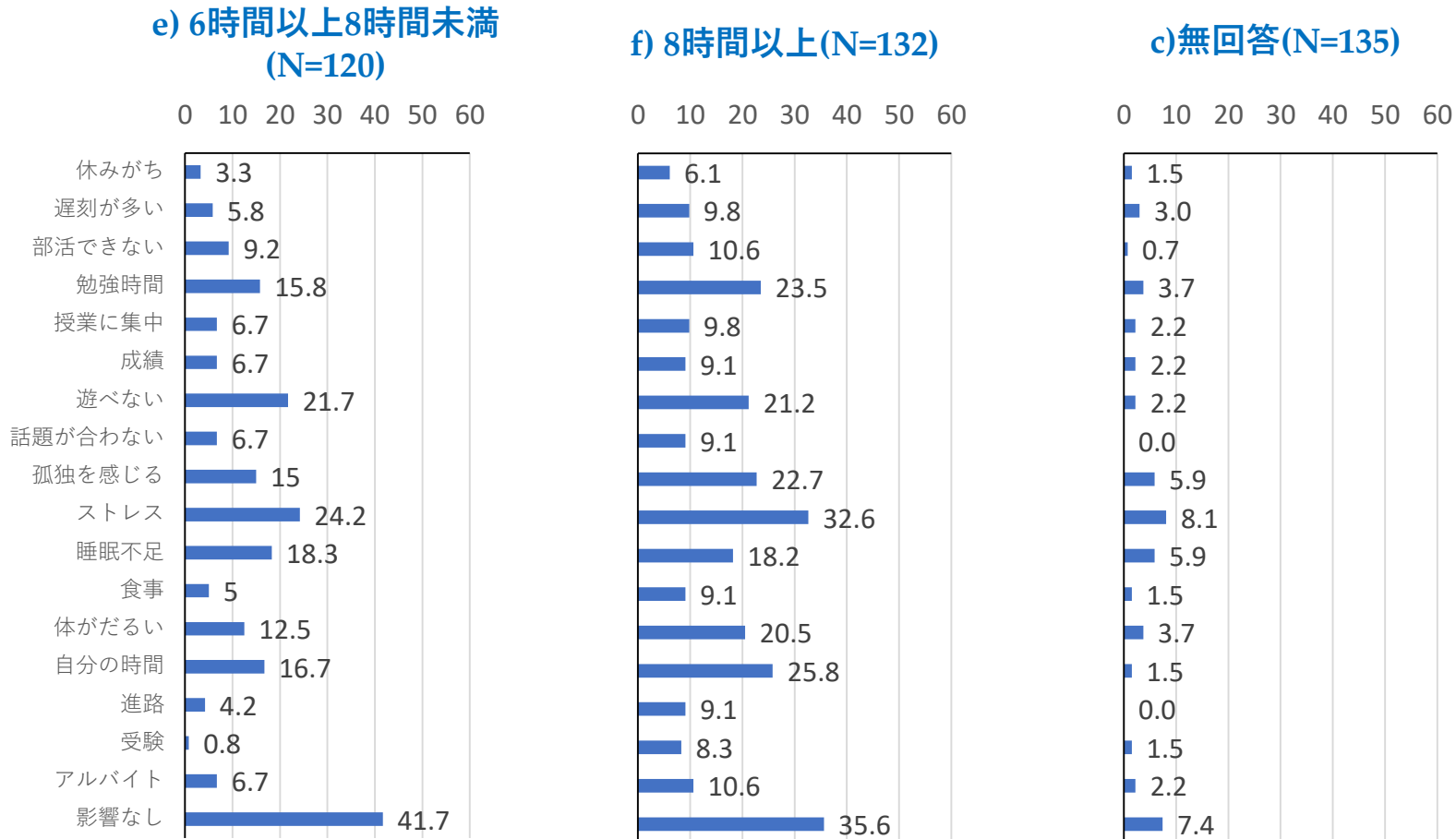


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

# 4-1-2 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響（休日，続き）

図表4-1-2. 1日あたりのケア時間数と学校生活への影響(休日)

単位：%

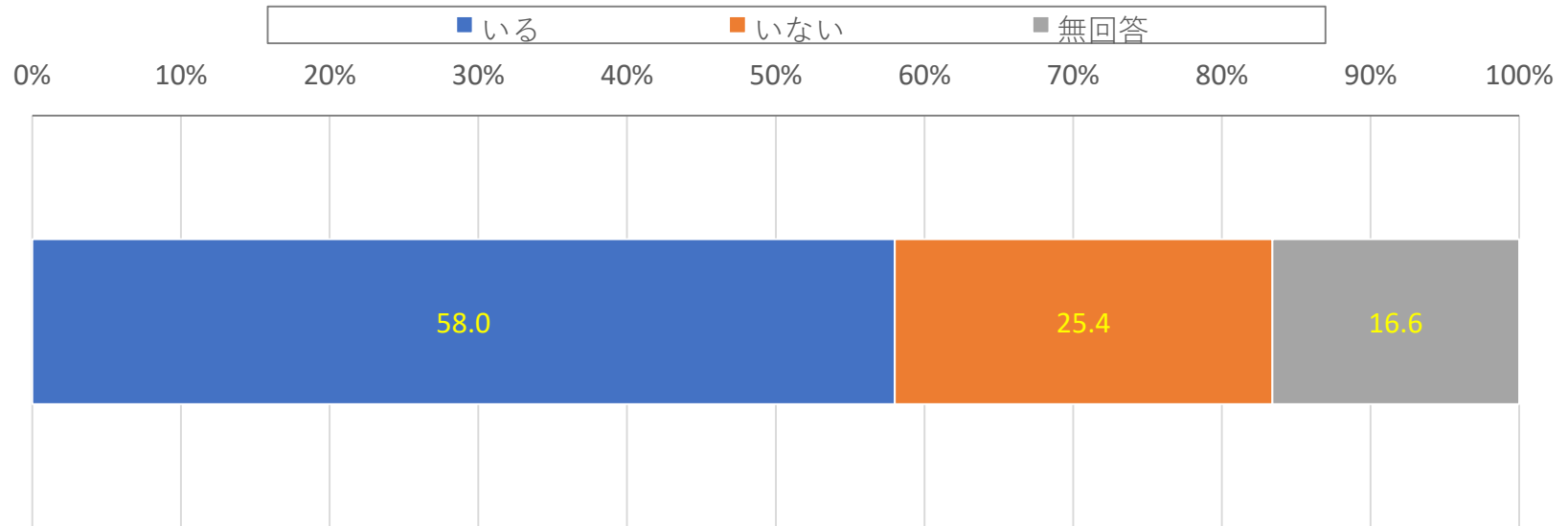


注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

## 4-2 ケアに関する悩みや不満を話せる人の有無

- ケアに関する悩みや不満を話せる人の有無（N=1,969）をみると、「いる」（N=1,142）が58.0%と最も高く、次いで「いない」（N=501）25.4%であった。

図表4-2. ケアに関する悩みや不満を話せる人の有無の割合



	いる	いない	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	1,142	501	326
割合 (%)	58.0	25.4	16.6

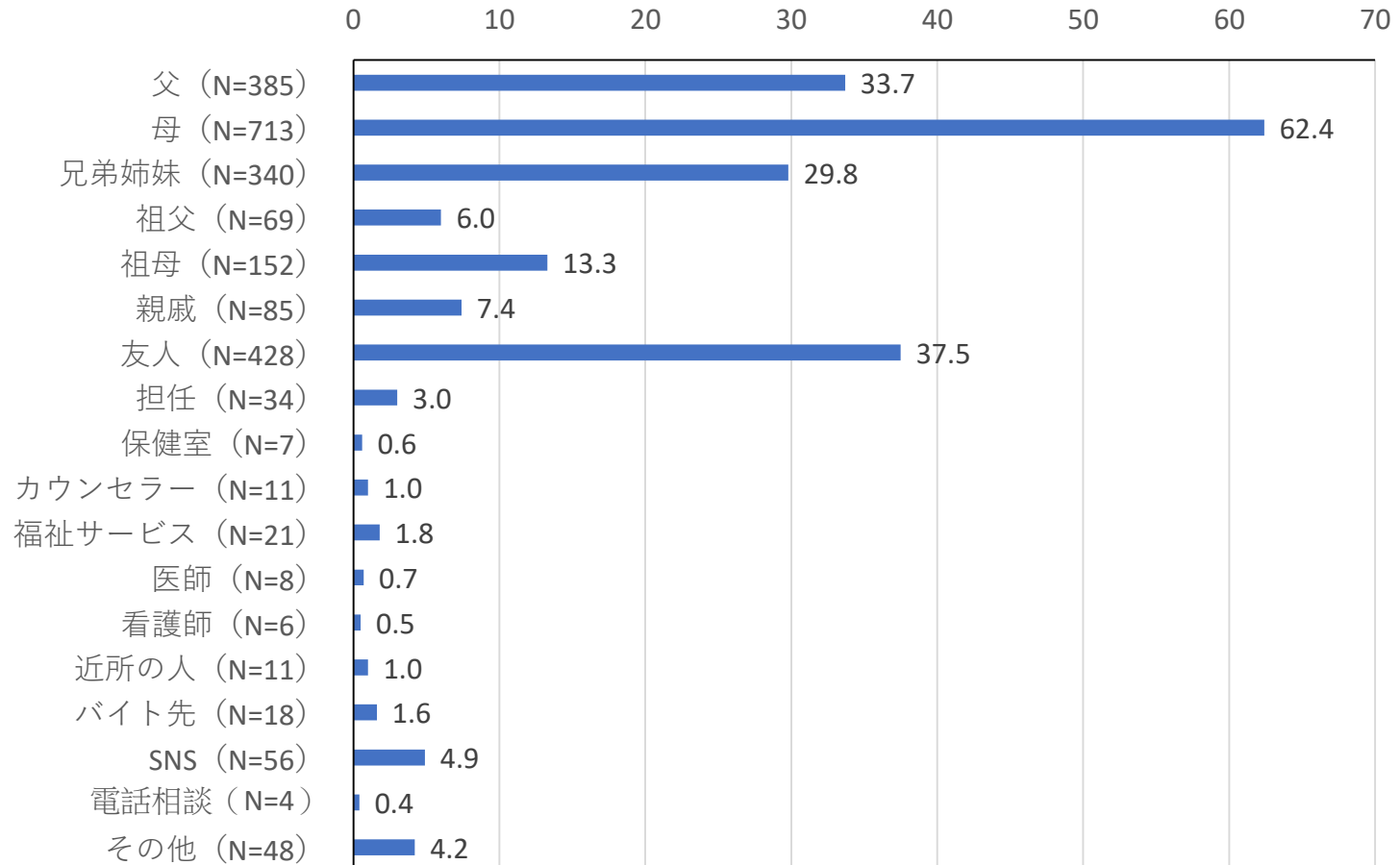
注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行っている。

## 4-3 ケアの相談相手

- 相談相手(N=1,142)をみると、「母」(N=713)が62.4%で最も高く、次いで「友人」(N=428)が37.5%、「父」(N=385)が33.7%、「兄弟姉妹」(N=340)が29.8%の順であった。

単位：%

図表4-3. ヤングケアラーにおけるケアの相談相手(複数回答)

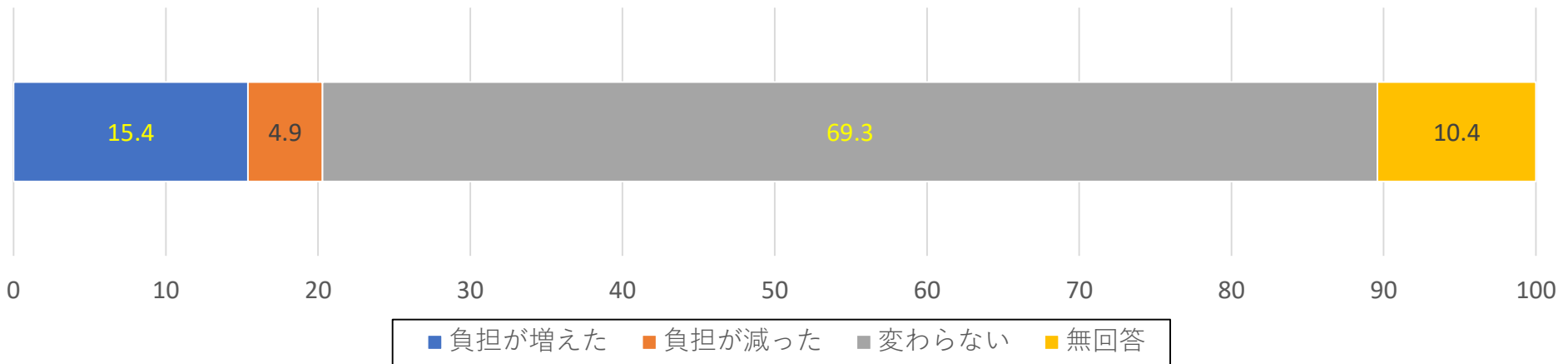


注)本集計はケアに関する悩みや不満を話せる人がいるヤングケアラー本人(1,142人)に対して行われている。

## 4-4 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスの影響(N=1,969)の構成割合をみると、「変わらない」(N=1,364)が69.3%で最も高く、次いで「負担が増えた」(N=304)が15.4%、「無回答」(N=205)が10.4%、「負担が減った」(N=96)が4.9%の順であった。

図表4-4.新型コロナウイルスの影響の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	304	96	1364	205
割合 (%)	15.4	4.9	69.3	10.4

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 4 - 5 新型コロナウイルスの影響（自由意見）

● ヤングケアラーに新型コロナウイルスの影響で特に困ったことについて、主な意見は以下のとおりであった。

- 外出できない、遊びに行けないなどで家にいる時間が増えて、ストレスがたまる。
- 入院していたり、施設にいる家族に会うことが出来ない。
- 祖母は肺がん患者なのですが、ゆっくり散歩がてらの買い物が怖くなって行けなくなってしまった。また、アルバイトの人手が減ってシフトが増えてしまい、時間が減ってしまった。
- 外出したがる祖母をどこにもつれていけない。つれていかないと一日中「どこかいこう。」と不機嫌になる。家族が都内に近い方に働きに出ているため、コロナを持ち込んでしまわないか心配。
- 持病をもっている親がいるので、コロナに絶対感染できないから、学校を休むことが多く、授業についていけない。
- 祖母が買い物に行きたいと言うため、心配で怒ってけんかになってしまいストレスになる。
- 家にいる時間が長くなり、親のお酒への依存が強くなっている。

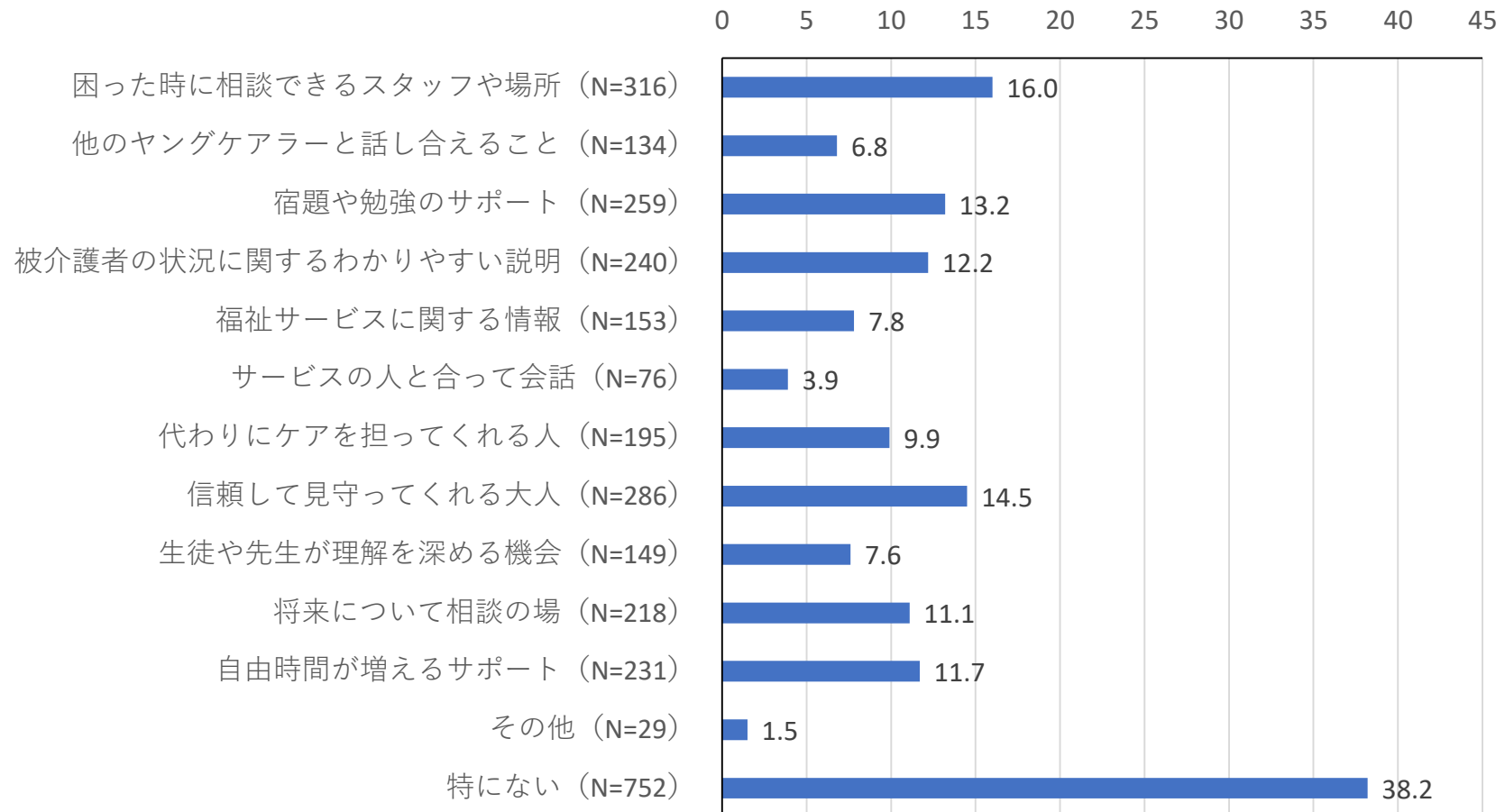
## 5. ヤングケアラーが望むサポート

# 5-1 ヤングケアラーが望むサポート

- 望むサービス(N=1,969)をみると、「特にない」(N=752)が38.2%で最も高く、次いで「困った時に相談できるスタッフや場所」(N=316)が16.0%、「信頼して見守ってくれる大人」(N=286)が14.5%、「宿題や勉強のサポート」(N=259)が13.2%の順であった。

図表5-1. ヤングケアラーが望むサービス(複数回答)

単位：%



注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

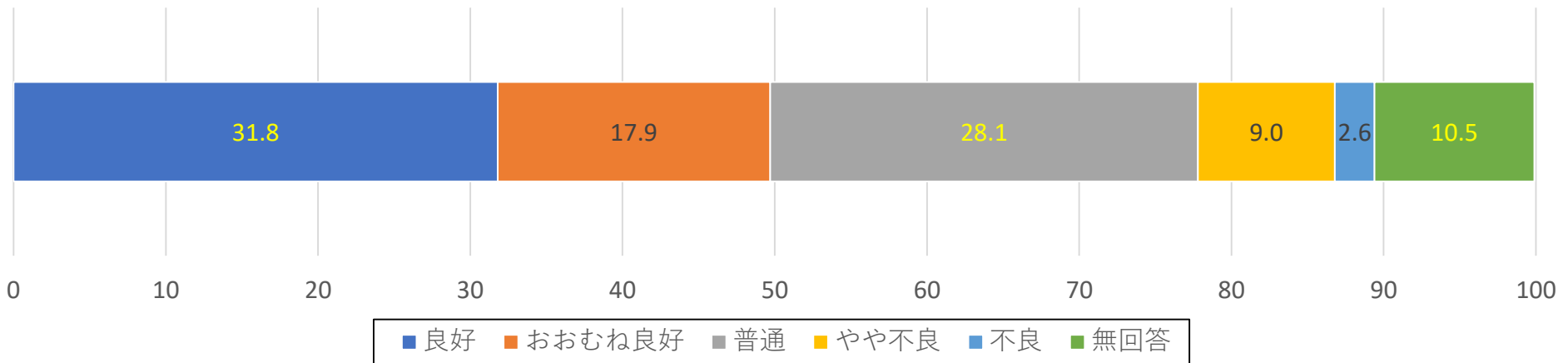


## 6. ヤングケアラー本人の状況

## 6-1 最近1カ月の健康状況

- 最近1カ月の健康状況(N=1,969)の構成割合をみると、「良好」(N=626)が31.8%で最も高く、次いで「普通」(N=554)が28.1%、「おおむね良好」(N=352)が17.9%、「無回答」(N=207)が10.5%の順であった。

図表6-1.最近1カ月の健康状況の割合



	良好	おおむね良好	普通	やや不良	不良	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	626	352	554	178	52	207
割合 (%)	31.8	17.9	28.1	9.0	2.6	10.5

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

# 6-1-1 ケアにかかる時間別にみた本人の健康状態

- ケアにかかる時間別に本人の健康状態をみると、平日では「1時間未満」、「1時間以上2時間未満」の区分で「良好」と回答した割合が最も高かった。一方、「8時間以上」の区分では「やや不良」と回答した割合が最も高かった。
- 休日でも「1時間未満」、「1時間以上2時間未満」の区分で「良好」と回答した割合が最も高かった。一方、「8時間以上」の区分では「良好」、「普通」と回答した割合が最も高かった。

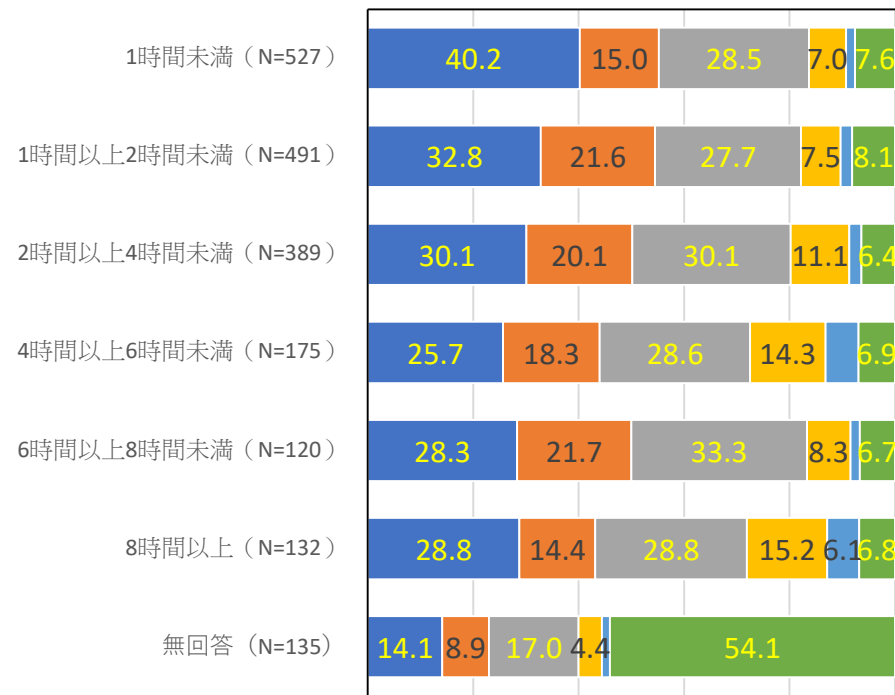
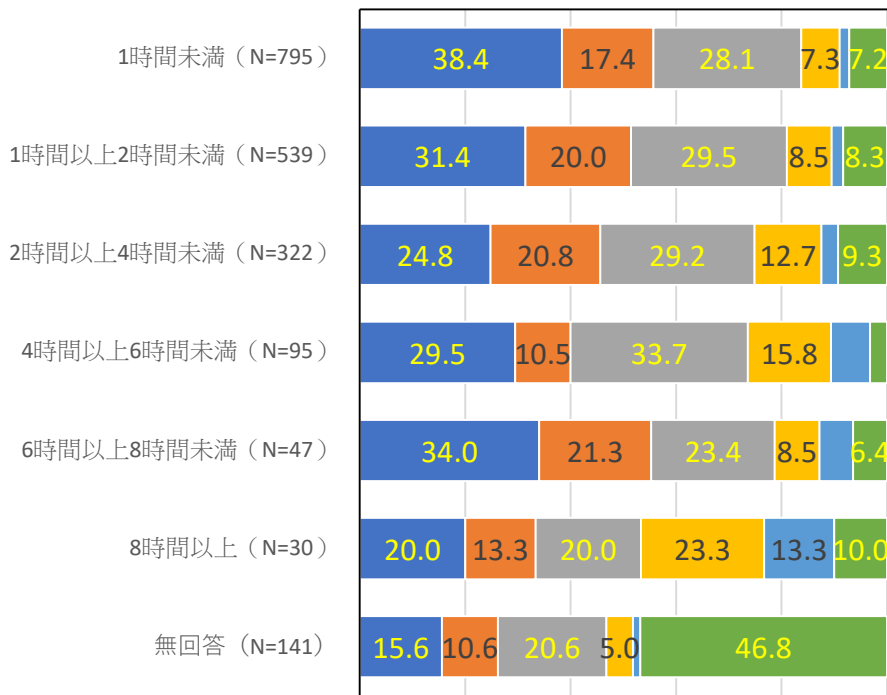
図表6-1-1. ケアにかかる時間別にみた本人の健康状態の割合

a) 平日

b) 休日

0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%



■ 良好 ■ おおむね良好 ■ 普通 ■ やや不良 ■ 不良 ■ 無回答

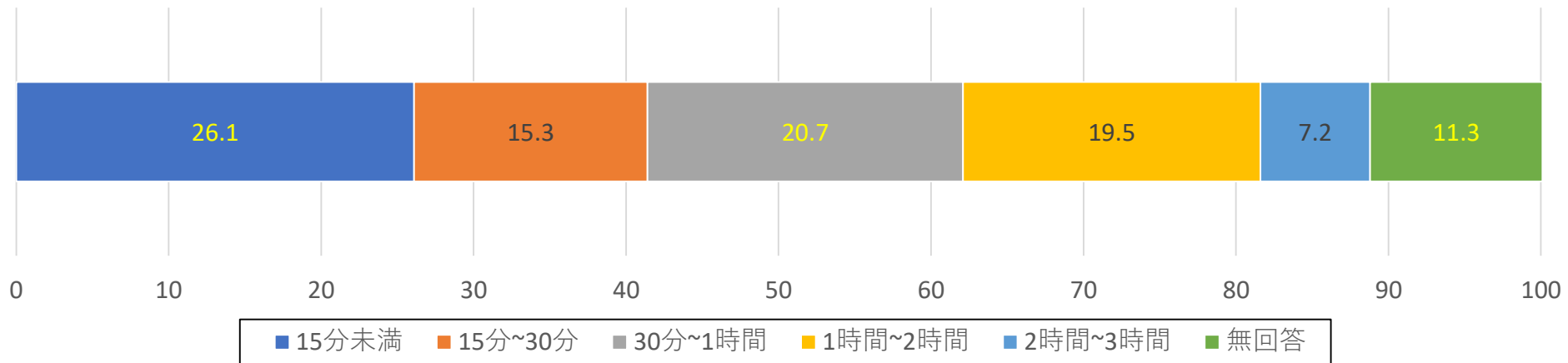
■ 良好 ■ おおむね良好 ■ 普通 ■ やや不良 ■ 不良 ■ 無回答

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 6-2 勉強時間

- 勉強時間(N=1,969)の構成割合をみると、「15分未満」(N=514)が26.1%で最も高く、次いで「30分～1時間」(N=407)が20.7%、「1時間～2時間」(N=383)が19.5%、「15分～30分」(N=302)が15.3%の順であった。

図表6-2. 勉強時間の割合



	15分未満	15分～30分	30分～1時間	1時間～2時間	2時間～3時間	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	514	302	407	383	141	222
割合 (%)	26.1	15.3	20.7	19.5	7.2	11.3

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 6-2-1 ケアにかかる時間別にみた勉強時間

- ケアにかかる時間別に勉強時間をみると、平日では「2時間以上」の区分で「15分未満」と回答した割合が最も多かった。特に「6時間以上8時間未満」の区分では42.6%が「15分未満」と回答していた。
- 休日では、「8時間以上」の区分で「15分未満」と回答した割合が40.9%と最も高くなっていた。また「2時間以上4時間未満」の区分で「30分以上1時間未満」と回答した割合が最も高くなっていた。

図表6-2-1. ケアにかかる時間別にみた勉強時間の割合

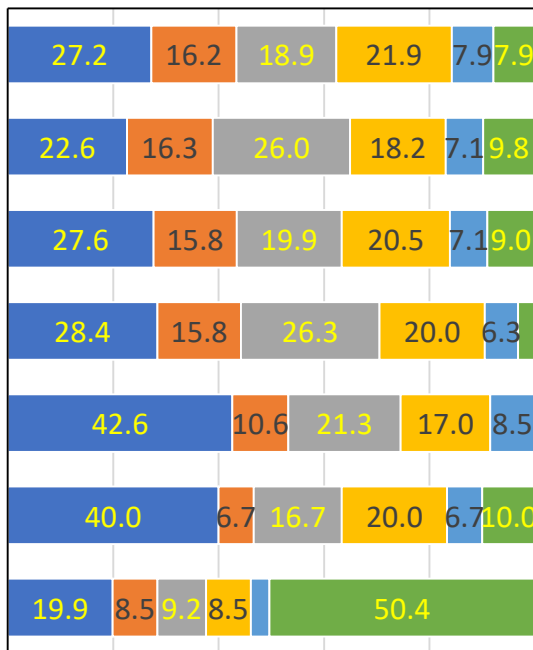
a) 平日

b) 休日

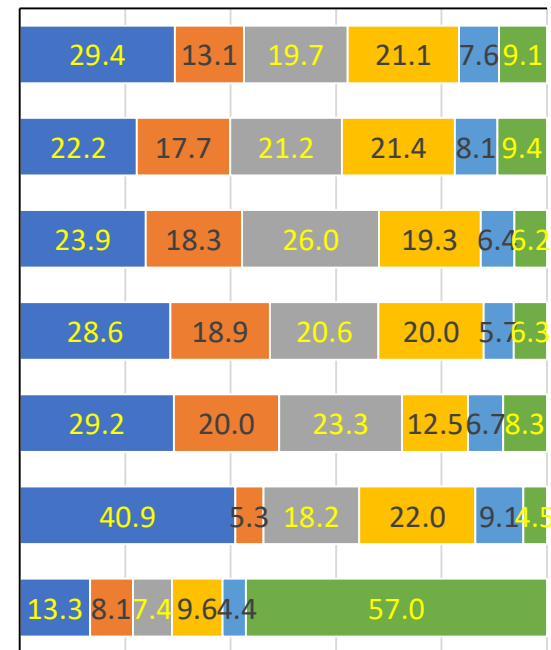
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

1時間未満 (N=795)



1時間未満 (N=527)



■ 15分未満 ■ 15分以上30分未満 ■ 30分以上1時間未満  
■ 1時間以上2時間未満 ■ 2時間以上3時間未満 ■ 無回答

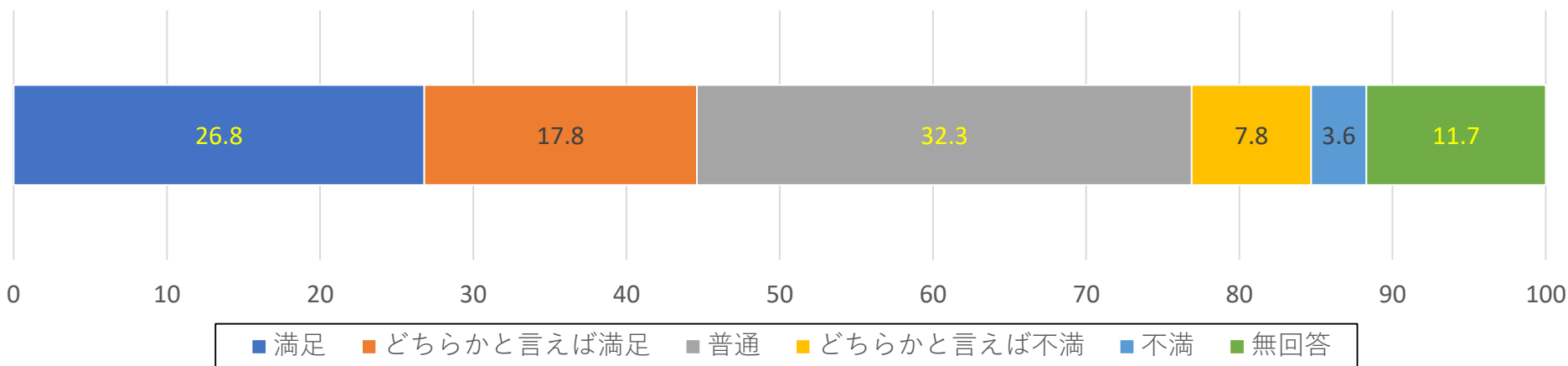
■ 15分未満 ■ 15分以上30分未満 ■ 30分以上1時間未満  
■ 1時間以上2時間未満 ■ 2時間以上3時間未満 ■ 無回答

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 6-3 生活満足度

- 生活満足度(N=1,969)の構成割合をみると、「普通」(N=636)が32.3%で最も高く、次いで「満足」(N=527)が26.8%、「どちらかといえば満足」(N=351)が17.8%、「無回答」(N=230)が11.7%の順であった。

図表6-3. ケアの開始時期の割合



	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	無回答
ヤングケアラー総数 (N=1,969)	527	351	636	154	71	230
割合 (%)	26.8	17.8	32.3	7.8	3.6	11.7

注)本集計はヤングケアラー本人(1,969人)に対して行われている。

## 7. 自由意見

## 7-1 ケアの相談について（自由意見）

- ヤングケアラーが周囲の友人などからケアについての悩みを聞いた際にどのような対応をしたかについて、主な意見は以下のとおりであった。

- 同じような話は聞いたことが無い。
- 友人から弟の面倒について少し相談され、自分達ができる範囲での対応の仕方を教えてあげられたような気がする。
- 話を聞いてあげる。相手を否定せずポジティブな言葉や労いの言葉をかける。
- 共感(心から)して、愚痴を言い合った。とにかく話を聞いてあげて否定はしない。
- 悩みを聞いたことはあります。私はまずその人の悩みに共感して、自分だったらこうするなとアドバイスをしたりしました。
- 障害者の兄がいる友達から通話で兄への将来の不安や愚痴を聞きました。私は経験したことが無いのでアドバイスできなかつたです。でも、「聞いてくれて少し落ちついた」と言ってくれたので良かったと思いました。
- 自分自身がそうだった経験がある。また友人からも聞いたことがある。相手を否定せず、気持ちが楽になるよう聞いた。
- ケアについての悩みがある友人と毎朝同じ通学路なので、ケアの悩みやそれ以外の話を聞いてアドバイスしている。
- 父が入院した時に、精神状態が悪くなり「自分のせいだ」「死にたい」という言葉をくり返しているときがあった。その時は、父の意志を否定せず「そうだよね」「つらいよね」と背中をさすりながら言うようにしていた。
- どうしても相談にのってほしいと言われたので、友達の悩みを何回か聞きました。正解が分かりませんが、当時の僕は友達に自分1人でかかえる問題ではないと言いました。
- お母さんが祖母の身の周りの世話の手助けをしていますが、祖母が母を傷つけるようなことをたまに言うことがあります。まるで「母は介護を何もしてくれないんだ」と周りの人に言うので、母がとても傷ついています。そんなときは、私が母の悩みを聞いたり、母の心のケアをしたりしています。



## 7-2 感想、学校や行政に求める支援、悩みや要望（自由意見1）

● アンケートに関する感想、学校や行政に求める支援、悩み、要望などについて、主な意見は以下のとおりであった。

- ヤングケアラーという言葉自体初めて聞きました。
- 私は3ヶ月間母が入院しており重い病気であったため、毎日往復2時間かけてお見舞へ行き、家事の6～7割を担っていました。兄や姉がいましたが中々手伝ってくれなかったので勉強への負担が大きかったです。何か負担が減る支援があれば安心だと思います。
- 私はケアをすることが負担になっていたとは感じなかったけど、様々な状況の中でケアをし、負担になってしまっている人がいるなら、もっと周りの人の理解を深めることができる機会を設けたり、支援をしてくれる環境を整備すべきだと思いました。
- 私の姉は、ダウン病ですが、そんなに重くなく、一緒にお話したり行動できたりしますが、重い病気を持っている人を世話している人達がたくさんいます。だから、少しでもその人達が気持ちを楽にできるように色々なサポートを作った方がいいと思います。
- 父や母が祖母のお世話を沢山して、私はあまり手伝えないのが申し訳ないです。自分はちょっとしたことでイライラしてしまうので、祖母にも皆にも悪いなと思ってしまいます。同じ境遇の人がいることを知ることができればもっとがんばろうと思える気がします。
- 半年前のことを思い出すと少し悲しくて手が止まったけれど、なんとか答えられました。ヤングケアラーのことを初めて知ったので、困っている人がいたら助けられるようにしたいと思います。
- 自分の親が日本人でないことがコンプレックスに思ったりすることもあります。親と上手く話せなかったり、人との生活習慣が違ったり、親戚の人がきたとき会話できなかったり、話せる姉と比較されたり、様々な悩みがあります。みんなと同じ生活をおくりたいです。
- 私は障害者の兄がいます。周りとは少し違いますが、それでも頑張っている兄を見ると勇気が持たえます。なので、今不安に思っていることは特にありません。
- 突然ヤングケアラーが大変だとか、支援が必要と言われても、本当に大変な人はできるだけそっとしておいてほしいと思う。学校でヤングケアラーという人が自分たちの周りにいるということを教えるのは良いことだとは思いますがそれによってへんに気をつかわれたりすると息抜きの場である学校までも失ってしまう。それでもヤングケアラーを手助けしたいならば正しい知識を広めてほしい。

## 7-2 感想、学校や行政に求める支援、悩みや要望（自由意見2）

- ヤングケアラーの高校生の交流会をして悩みを打ち明け相談し合いたい。
- この間テレビでヤングケアラーという言葉を知りました。今年の夏に祖母が亡くなって、それまでは私も母や姉と一緒に介護をしていました。アンケート程の負担は私にはなかったと思いますが、自分がヤングケアラーという存在だったことを初めて知り、少し救われる気持ちでした。
- 自分にとって負担がないとは言えませんが、何より弟が大好きなので、ケアについての不満は特にありません。
- 体験したことがないと分からない悩みなどがあると思うので、気軽に相談できる場所やサイトなどを作ったほうが良いと思う。
- 最近ではコロナウイルスにより、マスクの着用が義務づけられているのですが、障害をもつ人たちはマスクをつけていられないこともあるのでまわりの人の理解をしてほしい。
- 私は中学2年生からヤングケアラーでした。最初はストレスを感じる事が多く、たおれたりもしたことがあります。けど、そのおかげで、家族でいつも食卓を囲んで笑ってごはんを食べることができて、家族みんなでいれる時間が増え、今、とても幸せです。この家族の輪が壊れぬよう、良い環境であってほしいと思います。
- 私の母が倒れた時、先生は私を気にしてくれました。しかし、それがかえって「しっかりやらなきゃ」というプレッシャーで、特別あつかいされるのがストレスだったので、このアンケートで、そういう人たちへの関わり方を考えてほしいと感じました。
- ケアを家族の誰かがやらなくてはいけないが時間が重なり、遅刻あつかいになってしまうのが困る。
- 学校の先生とかに悩み相談とかしづらいから、相談しやすいような雰囲気をつくってほしい。
- ケアをしている人の中には、「まわりには言わないでくれ」と言われる人もいると思う。（知られたら冷たい目で見られる、「そんな病気たいしたことないでしょ」と理解のない人が言うといった理由から。）
- 自分の将来が心配です。今、父をすぐに支えられるのが祖母と自分だけなので、この先就職や結婚などどう行動すべきか全くわかりません。今は学校に行ってる間に、祖母が世話をしている、お金の方も父の仕事場が2年間見てくれているので生活は安定しています。今心配なのはこの先の生活です。
- もっとたくさんの人に障害について知ってほしい。障害だからと差別しないで地域の人々で支え合っていけるようにしたい。